

授業科目名	卒業研究Ⅰ				
担当教員名	澤田 和也・伊東 義輝・百々 徹・米田 三沙子・坂下 理穂				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

「卒業研究Ⅰ」・「卒業研究Ⅱ」では、1年間の通年授業を通じて、商品企画、作品の企画の基本理論を理解し、最終的にオリジナルブランドを作ることを目的とする。制作にあたっては、作品のデザイン、素材となる布の選定、染色方法の検討、パターンメイキング、縫製までの全ての工程についてその実技を習得する。さらに成果発表の方法として、ファッションショーを企画し、その場にて作品展示の手段も学生自身で考案する。最終的に、ファッションショーの企画・立案および発表までの体系的な学びを通して、表現方法を習得する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

アパレル・ファッション業界の一連の流れを、一年を通じて実践的に体得する。

目標：

自己ブランドを立ち上げるという共通目標に対して、グループ作業を通じ自身の責任と義務を認識しつつ主体性を持って作業に取り組む力を身に付けることができる。

汎用的な力

1. DP7. 完遂

共同作業の中で、さまざまな分野の学びを体験する中で、失敗を繰り返しながら課題を乗り越えるための能力を身に付けることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

常にグループの中の一員として自身の置かれた立場を考え、共同で物事を作り上げる力を養成します。原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

情報収集力および情報分析力	30 %	： 種々の情報媒体から適切な情報の入手能力とその分析方法や判定力を評価する。
基礎的な実技	20 %	： 作業への取組姿勢や技術力を評価する
表現力	30 %	： 自己のイメージの表現到達度と共に、プレゼンテーション能力の技術について評価する。
定期試験	20 %	： 前期の総まとめとして、卒業研究の実施内容についての理解度を実技評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

無し

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜1限

場所： 生活デザイン第1、2、3 研究室

備考・注意事項： オフィスアワー以外にも在室時にはいつでも対応します。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 授業概要の説明、グループ作業の行い方など 卒業研究についての概要を説明し、1年間課題に取り組むグループ分け、グループでの作業を説明する。また、研究倫理教育を実施する。	グループ内でそれぞれの性格や個性から分担すべき役割について話し合いをしておく。	4時間
第2回 素材からのデザイン企画 素材からの商品企画を行うため、担当する素材とそれを扱う企業をリサーチし、担当素材の特性を理解する。	マーケットリサーチの準備をしておく。	4時間
第3回 マーケットリサーチ 担当する素材の既存市場のリサーチと、新しいデザインの可能性をリサーチする。	リサーチ内容をまとめておく。	4時間
第4回 プレゼンテーション：マーケットリサーチ リサーチした既存市場の分析と担当素材の新しいデザインの可能性をまとめて提案する。	プレゼンテーションの修正を終えておく。	4時間
第5回 新しいデザイン：担当素材の新しい可能性を見つける 担当素材を使った新しいデザイン、新しいマーケットの提案を行う。 衣服に限らず、生活全般からイメージを膨らましてインテリア、雑貨などもデザインする。	担当した素材の特徴について調べる。	4時間
第6回 デザインテーマ、対象マーケット、ターゲットの設定 ターゲットの生活や対象のマーケットのイメージを作り、テーマに沿ってデザインを考える。	デザインテーマを考えておく。	4時間
第7回 テキスタイルをデザインする テーマ、ターゲットのイメージからテキスタイルデザインを行う。 染めやプリント、刺繍など様々な手法をリサーチし、イメージにあった手法を取り入れて考える。	テキスタイルの参考となるヴィジュアル資料を集めておく。	4時間
第8回 テキスタイルを制作する 担当素材を使って染めやプリント、刺繍、タック、ギャザーなど様々な加工を試してみる。	使いたい加工を決めて、加工した素材のイメージを考えてくる。	4時間
第9回 担当素材のテキスタイルデザインを完成させる テキスタイルデザインを完成させる。40cm×40cm程度の素材スワッチを作成する。	プレゼンテーションの準備を終えておく。	4時間
第10回 プレゼンテーション：デザインテーマ、対象マーケット、ターゲットの設定、テキスタイル デザインテーマ、対象マーケット、ターゲットの設定、テキスタイルをまとめてグループごとにプレゼンテーションを行う。	次の衣服、雑貨デザインに必要な資料を集めておく。	4時間
第11回 マーケットリサーチ：衣服、インテリア、雑貨デザインリサーチ グループごとのデザインテーマ、対象マーケット、ターゲットの設定、テキスタイルデザインにあった衣服、インテリア、雑貨の参考となるデザインをリサーチする。	リサーチ内容をまとめておく。	4時間
第12回 デザインを行う。 デザインテーマ、対象マーケット、ターゲットの設定にあった衣服、インテリア、雑貨のデザインを行う。	デザインの参考となる資料を集めておく。	4時間
第13回 デザインの決定、デザイン画を描く グループごとにテーマ、ターゲットにあったデザインを決め、デザイン画を描く。	デザインの参考となる資料を集めておく。	4時間
第14回 デザイン画を描きプレゼンテーション資料を作成する。	仕様書までまとめておく。	4時間

デザイン画を描き、着色し平面図を描き、仕様書を作成する。
そして、それらの内容をまとめてプレゼンテーションを行う。

授業科目名	ファッション心理学				
担当教員名	百々 徹				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	神戸ファッション美術館に学芸員として勤務の実績を有する 京都造形芸術大学空間演出デザイン学科ファッションデザインコースに教員として勤務の実績を有する				

開放科目の指示：「可」

授業概要

着装、購買、選択などの服飾に関する行動における心理的、社会的機能に着目し、社会学、社会心理学、心理学の基礎理論を中心に社会科学的な観点からファッションを理解します。普段の生活の中で、モノとしてのファッションではなく、人との関わりの中でどのようにファッションがとらえられているのかについて考察し、ファッションの今後の動向について分析する能力を身につけます。人間の心理が、ファッションに対してどのような行動をとってきたのか、購買意欲にどのようにつながっているのかについても分析します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

ファッションについての消費行動について社会心理学的な読み解きを行う。

目標：

ファッション心理特性を知り、ファッション企画力や販売力を身につける。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見

人間の心理特性を知り、ファッションと人間との関係についての課題を考察する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

毎回の小レポート

評価の基準

： 授業の内容をふまえた論述ができていれば5点、そこに独自の見解や具体例などが示されていれば4点、授業の内容のみの場合は3点、少しは内容を理解している2点、まったく理解していない1点とする。

40 %

期末試験

： 授業終了後の定期試験期間内に期末試験をおこない、時間内に論述問題に記述してもらいます。それを採点し、評価をおこないます。

60 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- 『装いの心理学』鈴木公啓編著／2020／北大路書房
『被服と身体装飾の社会心理学』S. B. カイザー／1994／北大路書房
『ファッション中毒』ミシェル・リー／2004／NHK出版
『隠れた脳ー好み、道徳、市場、集団を操る無意識の科学』シャンカール・ヴェダントム／2011／インターシフト
『買ったがる脳』デイビッド・ルイス／2014／日本実業出版社
『赤を身につけるとなぜもてるか？』タルマ・ローベル／2015／文藝春秋
『装いの心理と行動』小林茂雄・藤田雅夫編著／2017／アイ・ケイ・コーポレーション
『クール なぜ脳は「かっこいい」を買ってしまうのか』スティーブン・クウォーツ／2016／日本経済新聞出版社

『誘うブランド』ダリル・ウェーバー／2017／ビー・エヌ・エヌ新社
『ひととはなぜ服を着るのか』鷺田清一／1998／NHKライブラリー
『ファッションと哲学』アニェス・ロカモラ&アネケ・スメリク／2018／フィルムアート社

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜お昼休み
場所： 生活デザイン学科 第2研究室
備考・注意事項： オフィスアワー以外の時間にも対応します。生活デザイン第2研究室まで来室してください。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 ファッション心理学とは ファッション心理学で何を学ぶのか、なぜこのような学問が必要なのかについて理解する。	振り返りシートの作成	4時間
第2回 着衣のはじまりとその動機 そもそもなぜヒトは衣服というものを着はじめたのか？その起源と動機について考え、私たちが衣服を着る理由と機能について考えてみます。	着衣の起源と照らし合わせて、自分が衣服を着る理由について内省してみる	4時間
第3回 着衣と身体 衣服はそれだけではあまり意味をなさず、それを着て、動いて、暮らして、初めてそこに大きな意味が生まれます。つまり、衣服と身体との交わりである着衣から、衣服の意味ははじまるのです。この授業では、精神分析的な視点から、衣服が身体を通じて人に与える影響について、考えていきます。	着る服によって、自分にどのような心理的变化が起こっているかを、観察して書き留める	4時間
第4回 《わたし》と着衣 鏡を見ると、そこには自分の姿が映っています。でも、人は、その自分の表面のほとんどを衣服で覆っていることが常態です。この授業では、衣服というものが、自己のイメージを形成し、認識するのか、その心理的メカニズムについて、学習します。	自分のワードローブが、自分のセルフイメージをどのように作り上げているか、可能な限り分析してみる	4時間
第5回 着衣のロールプレイング 哲学者の鷺田清一は、「すべての衣服は制服である」と言っています。自分が「自由に」装っているつもりであっても、そこには社会の様々な規制や規範が含まれているのです。この授業では、女らしさや男らしさ、学生らしさや社会人らしさなどの「らしさ」を演じるための衣服の役割と機能について、学んでいきます。	就職活動におけるスーツの意味と、それを着た時の自分の心の変化について、考察してみる	4時間
第6回 服を見せる／私を魅せる 人はどうしてここまで自分を装うことに躍起になるのでしょうか？それは着衣という行為が、非常に饒舌にその人自身を語る非言語的なコミュニケーションの一つだからです。この授業では、コミュニケーションの道具として衣服が果たしている役割について、学んでいきます。	本人の意思とは裏腹なメッセージを伝えてしまう衣服の例について考えてみる。	4時間
第7回 見かけと印象 昔は、「人は見かけで判断してはいけない」と言われていましたが、実際には私たちは普通の生活の中で、他人の見かけから多くの情報を得て、多くのことを判断しています。この授業では、人の見かけがどのように周囲に受容され承認されているのか、学んでいきます。	電車内や街中で周りの人々を観察し、その人たちの服装からどのような印象を自分が受けているのか、分析してみる	4時間
第8回 着衣と集団 ユニバーサルスタジオジャパンに遊びに行くと、グループごとにお揃いの服を着て楽しんでいる若者たちにたくさん出会います。着衣は往々にして「わたし」を「わたしたち」にまとめたリつないだりする役割を果たすのです。この授業では、衣服を着ることで、どのようにして集団が形成され、そのメンバーに共同意識を持たせると同時に、排他意識も持たせるのか、そのメカニズムについて学んでいきます。	自分の体験談として、「皆んなとつながる衣服」についてまとめてみる。	4時間
第9回 はみ出す着衣 まとまるための着衣がある一方で、社会からはみ出るための着衣もあります。社会の趨勢に抗うための着衣や、社会的な枠組みを飛び越えるための着衣などです。この授業では、あえて社会からはみ出すための着衣について、その社会心理的な意義について学んでいきます。	パンクやコギャルなどの若者のサブカルチャーとその装いについて、自分の興味の範囲を掘り下げて調べてみる	4時間
第10回 流行の心理学	この春夏のシーズンの流行について調べ、それがどのようにメディアから発信されているか、分析してみる。	4時間

	<p>毎年毎シーズン、次から次へと新しい流行が現れては消えていきます。わたしたちはその流行に翻弄されながら、常に自分のクローゼットの中身を更新し続けているのです。この授業では、この流行が生み出される仕組みについて、様々な理論を学び、流行とは一体何かについて学んでいきます。</p>		
第11回	<p>わたしの彩り</p> <p>テルアビブ大学の心理学教授タルマ・ローベルが書いた本のタイトルは『赤を身につけるとなぜもてるのか?』といひます。これは本当でしょうか? またそれは一体どのような心理的要因で、実際に起こるのでしょうか? この授業では、色をまとう行為としての着衣について考え、色彩が人に引き起こす心理的作用について、学んでいきます。</p>	<p>自分の好きな色や普段よく身につけている色が、どのような心理的作用をもたらすのか、インターネットや書籍を通じて調べてみる。</p>	4時間
第12回	<p>人はどうしてブランド品に魅了されるのか</p> <p>ルイ・ヴィトンやエルメス、カルティエやティファニーなどのラグジュアリー・ブランドから、ユニクロやMUJI、ZARAや&amp;amp;amp;Mの手に入れやすいブランドまで、人はどうして“有名なもの”、すでに“人気を博しているもの”を身につけたがるのでしょうか? この授業では、ブランドというものを追求める人間の心理について、心理学や脳科学などの見地から説明していきます。</p>	<p>自分が欲しいと思っているブランド品をあげ、それを持つことが自分に何をもたらしてくれるのかを分析的にまとめてみる。</p>	4時間
第13回	<p>どうして「それ」を買ってしまうのか?</p> <p>消費社会が非常に高度に発展した現代では、消費者の購買意欲をかき立てるマーケティングの手法も日々進化しています。この授業では、脳科学を利用したマーケティングの手法について、その概略と今後の可能性について学んでいきます。</p>	<p>自分がよく行く服屋さんに足を運び、その店内レイアウトや照明、商品の並べ方についてよく観察し、それが来店者に与えているであろう効果について分析してみる。</p>	4時間
第14回	<p>わたしの心はどこまでわたしのものか?</p> <p>「どうして自分はこれを買ったのだろうか?」「どうして自分はこのような行動をとったのだろうか?」自分で自分の心のことは一番よくわかったつもりですが、自分で自分のことがよくわからなくなるのも、これもまたよくあることです。この授業では、サブリミナルという概念について学び、その潜在意識に働きかける広告やマーケティングについて説明していきます。</p>	<p>サブリミナル広告の事例について、インターネットや書籍で調べてみる。</p>	4時間

授業科目名	卒業研究Ⅱ				
担当教員名	澤田 和也・伊東 義輝・百々 徹・米田 三沙子				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

「卒業研究Ⅰ」・「卒業研究Ⅱ」では、1年間の通年授業を通じて、商品企画、作品の企画の基本理論を理解し、最終的にオリジナルブランドを作ることを目的とする。制作にあたっては、作品のデザイン、素材となる布の選定、染色方法の検討、パターンメイキング、縫製までの全ての工程についてその実技を習得する。さらに成果発表の方法として、ファッションショーを企画し、その場にて作品展示の手段も学生自身で考案する。最終的に、ファッションショーの企画・立案および発表までの体系的な学びを通して、表現方法を習得する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

アパレル・ファッション業界の一連の流れを、一年を通じて実践的に体得する。

目標：

自己ブランドを立ち上げるという共通目標に対して、グループ作業を通じ自身の責任と義務を認識しつつ主体性を持って作業に取り組む力を身に付けることができる。

汎用的な力

1. DP7. 完遂

共同作業の中で、さまざまな分野の学びを体験する中で、失敗を繰り返しながら課題を乗り越えるための能力を身に付けることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

情報収集力および情報分析力

30 %

基礎的な実技

20 %

表現力

30 %

定期試験

20 %

評価の基準

： 種々の情報媒体から適切な情報の入手能力とその分析方法や判定力を評価する。

： 作業への取組姿勢や技術力を評価する

： 自己のイメージの表現到達度と共に、プレゼンテーション能力の技術について評価する。

： 卒業研究の成果を、卒業制作展の場において如何に学んだことを表現しているかの実技試験に充てる。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

無し

履修上の注意・備考・メッセージ

常にグループの中の一員として自身の置かれた立場を考え、共同で物事を作り上げる力を養成します。
 本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日 1限
 場所： 生活デザイン第1、2、3研究室
 備考・注意事項： オフィスアワー以外でも在室時にはいつでも対応します。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 担当素材の染めや加工を行う。 前期で作成した素材加工スワッチをベースに、アイテム製作に必要な分量の素材加工を行う。	素材加工の下準備を進めておく	4時間
第2回 染色を行う（試し染め） 制作相手のデザインに必要な担当素材の染色を行う。	捺染の概念と技法について理解を深めておく	4時間
第3回 染色を行う（本染め） 作品の制作イメージに合わせ、デザインに必要な素材の追加作成を行う。	捺染の概念と技法について理解を深めておく	4時間
第4回 二次加工を行う（下地処理） 染色を終えた素材にプリントや刺繍など二次加工を行うことで、素材の表情を豊かにする。	加工の下準備を進めておくこと	4時間
第5回 二次加工を行う（表面処理） 前回の作業に引き続き、二次加工を行い目的のデザインを完成させる。	次週までに加工を仕上げておく。	4時間
第6回 パターンメイキング①（パターンの理解） グループごとにデザインしたアイテムのベースパターンを作成する。	パターン作成を進めておく	4時間
第7回 パターンメイキング②（アイテム毎に展開） グループごとにデザインしたアイテム毎のパターン展開を行う。	パターン作成を進めておく	4時間
第8回 パターンメイキング③（サイズ調整） グループごとにデザインしたアイテムのパターンをモデルに合わせて調整し完成させる。	次週までにパターンを完成させておく	4時間
第9回 裁断、縫製。 完成したパターンを使用して、素材の裁断を行う。	裁断を終えておく	4時間
第10回 縫製の下準備 裁断した素材に芯張り、ロック始末など下準備を終える。	次週までに下準備を終えておく。	4時間
第11回 縫製①（シーチング縫製） デザインしたアイテムをシーチングで縫製する。	各グループで縫製を進めておく	4時間
第12回 縫製②（モデルフィッティング） 仮縫いしモデルに着せてチェックを行い、修正する。	修正を終えておく	4時間
第13回 縫製③（本生地縫製） 染色した生地で縫製を終え、デザインしたアイテムを完成させる。	各グループでアイテム製作を終えておく。	4時間
第14回 プレゼンテーション、作品展示の実施 プレゼンテーションをまとめて、作品展示の空間イメージを考える。	プレゼンテーションの準備を進めておく。	4時間

授業科目名	ショップ経営学				
担当教員名	橋本 洋平				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	自社アパレルブランドのショップ経営、商業施設内でセレクトショップ運営。（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

この講義は、小売業において店長など店舗経営を任される立場について必要な経営の基本を習得することを目標としています。内容としては民間企業に就職した場合に役立つ一般的な知識から、自身で経営者となりブランディングする際に必要な知識まで学びます。実際にショップ経営計画を作成しながら、店舗が発展していく為に必要なオリジナリティーのある店舗戦略、論理的な考え方、利益の出し方、計数の見方などをわかり易く学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

就職後に即戦力として活躍するための、店舗経営の基礎や企画書作成およびプレゼンテーション力に関する知識を身につけることができる。

目標：

店舗経営の企画書作成およびプレゼンテーションができるようになる。

汎用的な力

1. DP5. 計画・立案力

オリジナリティーのある店舗戦略、論理的な考え方を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 実験、実技、実習
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

定期試験(レポート)	70 %	：	定期試験のレポート(ポートフォリオ)の内容によって、オリジナリティーがあり論理的な考え方であるか、第3者が観て理解しやすく仕上がっているかを評価します。
課題レポート	20 %	：	課題レポートの内容によって、基本知識の理解度を評価します。
授業内のワーク	10 %	：	課題設定のプロセスが妥当かつ効果的であったかどうか、主体的な取り組み姿勢であったかどうかを評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜講義で示します

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。具体例をあげてわかりやすく講義します。1～4回は、次回授業までにレポートを課します。5回以降は、1項目づつ、企画書（ポートフォリオ）のページ作成を課します。その回の授業の内容を復習し、次回の授業で企画書の作成が出来るように予習と準備しておくこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前夜
 場所： 授業の教室
 備考・注意事項： 質問は授業の前夜に応じる。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 講義の概要、デザインの重要性について 授業を受けるにあたっての注意、授業の概要、ショップ経営におけるデザインの重要性	レポート課題一差別化できているショップ、独自性のあるショップのリサーチ。	4時間
第2回 売上高、原価、費用、利益とは 勘定科目、利益の種類、貸借対照表、損益計算表を学ぶ。損益計算書、貸借対照表を用いた経営分析	レポート課題一企業の損益計算書・売上速報を分析。	4時間
第3回 利益を上げるには 損益分岐点の理解と算出	レポート課題一複数のショップの損益分岐点売上高を計算します。	4時間
第4回 計画立案のポイント 計画をたてていくプロセスを学ぶ。「ターゲット」「店舗立地」「価格帯」3つの視点から計画をたてる。	レポート課題一「ターゲット」「店舗立地」「価格帯」が決まっている計画を考える。	4時間
第5回 基本計画をたてる 各自で「独自性のある」ショップ経営計画を作り始めます。何を？誰に？どこで？販売したいかを決める。	ポートフォリオ作成にむけた予習と資料収集一商品構成・ターゲット・店舗立地のリサーチと写真収集。	4時間
第6回 ページ作成・レイアウトについて 何を？誰に？どこで？販売したいかを「写真」と「文章」で持ってきて、A4の紙にコラージュ（切り貼り）してページを作っていきます。	ポートフォリオ作成にむけた予習と資料収集一各目的の計画に必要な備品のリサーチ、参考資料を収集する。	4時間
第7回 ショップ立ち上げについて ショップ立ち上げ時に必要な備品・デザインできる物を知る。	ポートフォリオ作成にむけた予習と資料収集一備品デザインを考えてくる。	4時間
第8回 必要経費について、資金調達について 必要経費を算出し、資金調達の手段を学ぶ。	ポートフォリオ作成にむけた予習と資料収集一備品デザインを考えてくる。	4時間
第9回 ショップ備品のデザイン 紙とハサミと色鉛筆などを使って、ショップカード・下げ札等のデザインをする。フォトショップ・イラストレーターを使用した制作方法を学ぶ。	ポートフォリオ作成にむけた予習と資料収集一いろんなショップの販促活動をリサーチしてくる。	4時間
第10回 販促について リピート顧客作りについて学ぶ。どのような販促活動が、自分の計画に適しているか考える。	ポートフォリオ作成にむけた予習と資料収集一いろんなショップのwebショップの形態・特徴をリサーチしてくる。	4時間
第11回 webショップについて webショップの仕組みを知る。webショップのアイデアを考える。	ポートフォリオ作成にむけた予習と資料収集一いろんなショップのレイアウト・ディスプレイをリサーチしてくる。	4時間
第12回 VMDについて ビジュアルマーチャンダイジングの基本を学ぶ。ショップ見取り図と内部レイアウトのデザインをしてみる。	ポートフォリオ作成一各自の計画に合った店舗レイアウト・ディスプレイの作成をする。	4時間
第13回 アイテムバランスとアイテムデザイン VMDにそって、アイテム構成比率を考える。消化率を考えて売上目標を設定する。仕入れアイテムと自社企画のデザインの違いを知る。自社企画アイテムのデザインをしてみる。	ポートフォリオ作成にむけた予習と資料収集一各自で設定したアイテム構成比率にそって、アイテム写真を集めてくる。	4時間
第14回 ショップ経営計画の振り返り	レポート課題一振り返りレポートを500字以内でまとめておく。	4時間

「ショップ経営計画」を客観的に振り返り、修正できる箇所がないか考察する。

授業科目名	創作研究 I				
担当教員名	伊東 義輝				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	日仏のアパレル企業において、デザイン、パターンなど衣服作成の実務経験有り。(全14回)				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では、個々の個性の確立、創造性の発展、現代性の理解を目的とし、将来、ファッション業界で活躍するために必要な企画力、技術力を高める。各自のコンセプトメイキングからテーマ設定、ターゲット設定、コンセプト、テーマを表現する洋服のデザイン、パターンメイキング、パターンチェック、サンプリング、ファッションショー形式のブランド発表など全過程を経験することにより俯瞰的視野を持った商品企画のできる人材を育成することを目的としている。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

デザイン、制作、ファッションショー構成などファッション業界に必要なスキルを総合的に学び実践することができる。
被服制作に必要なデザイン能力、技術を個々の個性に合わせて学ぶことができる。

目標：

個々の個性を確立し、創造性を発展させ、現代的なデザインを提案できるようになる。
自分の個性を被服製作で表現することができる。

汎用的な力

1. DP5. 計画・立案力
2. DP6. 行動・実践

デザイン、制作、ファッションショー構成などトータルで計画、立案する力を身につける。

計画・立案したことを期限内に確実に行動し、実践していく

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

定期試験	：	個々の個性に基づいたデザインの提案を行い、デザインブックを作成する。そして、その世界観を人に伝えることのできるプレゼンテーションができているかどうかを評価します。
	50 %	
トータル作成	：	デザインした洋服をシーチングで美しく表現できているかで評価します。
	40 %	
作業進捗管理	：	決められた期限の中で作業を進めることができているかを評価します。
	10 %	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であり、週1回2時間続きの授業を全14回（合計28時間）実施するため、平均すると毎週2時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日 2限
場所： 生活デザイン第3研究室

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 コンセプトメイキング1：コンセプトベース ・自分の個性、好きなものを洋服で表現する為、自分のブランドコンセプトを考える。 ・洋服だけでなく絵画、彫刻、建築など様々な分野をリサーチし、洋服をデザインするための要素をインプットする。	必要な資料のリサーチ	2時間
第2回 コンセプトメイキング2：ヴィジュアルまとめ ・コンセプトをまとめ、ヴィジュアルで表現する。 ・コンセプトを表現できるテーマを探す。	必要なヴィジュアル資料と個々のテーマを表現できる言葉を探す	2時間
第3回 デザインする為のテーマを設定する。 ・自分のコンセプトを表現するテーマをヴィジュアルで表現する。 ・テーマからデザインに必要なキーワードを出す。	テーマにあった生地や付属など素材を探す。	2時間
第4回 デザインアプローチ1：資料をまとめる ・自分のコンセプト、テーマを表現する洋服のデザインを考える。 ・絵画や彫刻、建築などこれまでインプットした資料を洋服のデザインという形でアウトプットし、4コーディネートでのデザインを行う。	コーディネートとの参考となるような色や柄の組み合わせを探す。	2時間
第5回 デザインアプローチ2：カラー、プリント提案 ・4コーディネートでのデザインを行う。 ・プリント柄や色の組み合わせを考える。	デザイン画の参考となるイラストや絵画を探す。	2時間
第6回 デザインアプローチ3：シルエット、ボリューム研究 ・ボディを用いて、3Dでのデザイン研究を行う。 ・シルエットやボリュームを見つける。	見つけたシルエットやボリュームをまとめデッサンしておく。	2時間
第7回 デザインアプローチ4：ディテール研究 ・3Dでのデザイン研究。 ・ディテールのデザインを考える。	自分にあった画材を用意しておく。	2時間
第8回 デザインアプローチ5：デザイン画を描く ・集めた資料を使ってデザイン画へ落とし込む。 ・自分のコンセプト、テーマにあった描画表現をおこなう。	アクセサリーを含めたトータルコーディネートとの案案を考えておく。	2時間
第9回 デザインアプローチ6：アクセサリーデザイン ・4体のデザイン画を描き、アクセサリーのデザインも行う。	デザイン画を仕上げしておく	2時間
第10回 デザインブックを作る ・コンセプト、テーマ、デザインアプローチ、デザイン画をまとめたデザインブックを作る。	デザインブックに必要な資材を集めておく	2時間
第11回 1、2体目、パターン制作 ・1、2体目のパターン制作を行う。 ・1、2体目のパターン制作を行う。 ・1、2体目のパターン制作を行う。 ・デザインブックのチェックを行う。	デザインブックの作成を進める（紙の種類など自分のデザインにあった材料を探す）	2時間
第14回 1・2体目仮縫い ・1・2体目のデザインをトータル縫製する。	デザインブックの作成、プレゼンテーション準備を行う。	2時間

授業科目名	創作研究Ⅱ				
担当教員名	伊東 義輝				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	日仏のアパレル企業において、デザイン、パターンなど衣服作成の実務経験有り。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では、個々の個性の確立、創造性の発展、現代性の理解を目的とし、将来、ファッション業界で活躍するために必要な企画力、技術力を高める。各自のコンセプトメイキングからテーマ、ターゲット設定、コンセプト、テーマを表現する洋服のデザイン、パターンメイキング、パターンチェック、サンプリングファッションショー形式のブランド発表など全過程を経験することにより俯瞰的視野を持った商品企画のできる人材を育成する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

デザイン、制作、ファッションショー構成などファッション業界に必要なスキルを総合的に学び実践することができる。
被服制作に必要なデザイン能力、技術を個々の個性に合わせて学ぶことができる。

目標：

個々の個性を確立し、創造性を発展させ、現代的なデザインを提案できるようになる。
自分の個性を被服製作で表現することができる。

汎用的な力

1. DP5. 計画・立案力
2. DP6. 行動・実践

デザイン、制作、ファッションショー構成などトータルで計画、立案する力を身につける。

計画・立案したことを期限内に確実に行動し、実践していく

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

定期試験（卒業制作ファッションショー）

： 卒業制作コレクション作品デザインの創造性、現代性、作品完成度を評価します。

70 %

作業進捗管理

： 自分の立てたスケジュールに沿って作業を進めているのかなど自己管理できているかを評価します。

30 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

なし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であり、週1回2時間続きの授業を全15回（合計30時間）実施するため、平均すると毎週2時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日 2限
 場所： 生活デザイン第3研究室

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 3体目のパターンメイキング1：トップス、フライヤーデザイン ・3体目のパターン制作 ・ショーのフライヤーデザインを始める	フライヤーのデザインを考えておく。	2時間
第2回 3体目のパターンメイキング2：トップス、アウター、フライヤーデザイン ・3体目のパターン制作	3体目のパターン制作を進めておく。	2時間
第3回 3体目のパターンメイキング3：アウター、ボトム、フライヤーデザイン ・3体目のパターンメイキング ・ショーのフライヤーデザインを完成させる	3体目のパターン制作を進めておく。1体目の素材を探す。	2時間
第4回 3体目のパターンメイキング4：ボトム ・3体目のパターンメイキング	パターンを仕上げておく。1体目の素材を探す。	2時間
第5回 3体目の仮縫製1：トップス ・3体目のデザインをトータル縫製する。	3体目のトータル縫製を進めておく。2体目の素材を探す。	2時間
第6回 3体目の仮縫製2：ボトム ・3体目のデザインをトータル縫製する。	3体目のトータル縫製を進めておく。2体目の素材を探す。	2時間
第7回 3体目の仮縫製3：アウター ・3体目のデザインをトータル縫製する。	3体目のトータル縫製を進めておく。	2時間
第8回 3体目の仮縫製4：コーディネート、素材チェック ・3体目のデザインをトータル縫製を仕上げる。 ・1.2体目の素材をチェックする。	モデルの予定を管理しておく。3体目の素材を探す。	2時間
第9回 モデルフィッティング、パターン修正 ・モデルフィッティングでの変更点を修正する。 ・3体をショーで着用するモデルに着せてチェックする。	パターン修正を行う。3体目の素材を探す。	2時間
第10回 本生地裁断、ファッションショー構成1：背景映像 ・3体の本生地裁断 ・ファッションショーの背景映像を考えていく。	ショーの構成案を作る。素材チェックを行う。	2時間
第11回 本生地裁断と縫製、ファッションショー構成2：モデルウォーキング ・本記事裁断が終わり次第、縫製を始める。 ・ファッションショーのモデルウォーキングを考えていく。 ・1.2.3体目の素材をチェックする。	3体の本生地裁断を終えておく	2時間
第12回 縫製1：1・2体目縫製、ファッションショー構成3：照明 ・3体の縫製 ・ファッションショーの照明案を考える。	3体のコーディネートを完成させる。	2時間
第13回 縫製2：2・3体目縫製、ファッションショー構成4：全体バランス確認 ・3体の縫製 ・ファッションショーの構成を考え、必要であればリハーサルを行う。	3体のコーディネートに必要なアクセサリを揃えておく。	2時間
第14回 3コーディネートを完成させて、モデルフィッティング、写真撮影 ・3体の洋服制作、アクセサリなどのコーディネートなどを完成させる。 ・アクセサリを含めたすべてのコーディネートをモデルに着せて撮影を行う。	3体の縫製を完成させる。	2時間

授業科目名	ネールアート演習				
担当教員名	高尾 理恵				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	ネイリストとしてサロンワークの経験を積む。 美容専門学校にてネイル教員として勤務。 日本ネイリスト協会常任本部認定講師として活動しネイリストの育成、イベント活動に参加。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

1 ネイルテクニックの基本であるネイルケアを学び、ネイルケアの重要性や必要性を学びます。技術だけではなく、理論も学びます。そして、爪の構造や爪の病気等も学び、ネイリストとして、施術可能なのか医師に託さないといけないのかを判断する力を身につけます。サロンワークの中で大切な消毒管理やお客様へのカウンセリングの仕方等も、カウンセリングシートに基づいて学びます。
2 流行のジェルネイルを取り入れ、持ちが良いジェルネイルの塗り方や流行のジェルアートを学びます。
3 授業の集大成として各自でテーマを設定し、作品作成を行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

ネイルの基礎を理解し実践していく

目標：

手を美しく手入れし、アートまで施せるようになる

汎用的な力

1. DP6. 行動・実践

多くの方の手に触れ経験しネイル技術を実践していく

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業態度	40 %	：	積極的に実習に取り組み、課題をクリアしようとしているかの観点から、独自のルーブリックで評価する。
定期試験(作品)	40 %	：	授業の集大成として、テーマに沿った作品を努力し作成しているかの観点から独自のルーブリックで評価する。
提出物	20 %	：	授業におけるノートの作成及び提出を指示したプリントを、独自のルーブリックで評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- JNA テクニカルシステムベーシック
- JNA テクニカルシステム～ジェルネイル～

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるので、平均すると毎時間1時間の授業外学習が求められる。
教材購入日(第2回目の授業時を予定)に指定された教材を購入する必要があります。
教材が無いと授業が受けられませんので必ずご購入下さい。
基本的に実習は相モデルで行いますので、指定された日は必ず自爪で授業に参加して下さい。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業前後
場所：	授業時の教室
備考・注意事項：	質問に関しては、授業の前後で対応いたします。

授業計画

学修課題

授業外学修課題にかかる目安の時間

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 授業の目標と進め方 ・授業の目標と進め方 ・実習に必要な消耗品準備通達 ・爪の形と種類を学びネイルチップにて実践します。	爪の形の種類5種類を覚える。教材を準備する。	1時間
第2回 教材購入、確認 ネイルケア①相モデル 消毒～ファイル ・教材を購入し、道具の確認と説明を行います。 ・材料を覚え、衛生的に技術が行われるようにテーブルセッティングを学びます。 ・ネイルケアのデモンストレーションを見学し相モデルで実践していき、モデルの手の扱い方を学びます。	ネイルケアの手順を必ず頭に入れておく事。	1時間
第3回 ネイルケア②相モデル 消毒～ファイル～キューティクルプッシュまで ・エメリーボードの扱い方を学びます。 ・キューティクルのプッシュアップとプッシュバックを行い、正しいメタルプッシャーの扱い方を学びます。	エメリーボードを使用し爪の形を整える	1時間
第4回 ネイルケア③相モデル 消毒～ファイル～キューティクルプッシュ～クリーンナップ ・前回までのキューティクルのプッシュアップとプッシュバックまでの工程を復習していき、ネイルケアの仕上げとなるクリーンナップを学びます。 ・正しいガーゼ、ニッパーの持ち方を学び、ルースキューティクルを適切にカットしていきます。	第4回までの内容を復習する。	1時間
第5回 カラーリング、パフティング相モデル ・カラーリングデモンストレーション見学 ・マニキュアを用いて、ベースコートからカラー、トップコートまでプロの塗り方を学びます。 ・爪の表面の磨き方を学びます。	カラーリングの手順を復習する。	1時間
第6回 爪の構造、爪の病気、ジェルの性質 ・基本となる爪の構造を学び理論的にもネイルケアの重要性をも学びます。 ・爪の病気の種類を学びネイリストとして施術可能か不可能かを見極める力をつけます。的確なアドバイスを伝える力を身につけます。 ・次回の授業から行うジェルネイルに向けて、ジェルの種類や特徴等を学びます。 ・指定されたプリントの提出	爪の構造、爪の病気のプリントを復習する。	1時間
第7回 ジェルネイルの塗り方、オフの仕方 ・ジェルネイルを塗る前に重要なプレパレーションを学びます。 ・ジェルネイルの扱い方、塗り方を学びます。 ・ジェルネイルのオフの仕方を学びます。 ・自爪にて実践。	プレパレーションの復習をする。	1時間
第8回 ジェルネイル カラージェル相モデル ・プレパレーションの確認を行い、相モデルにてカラージェルを実践する。 ・カラージェルの量の取り方、ハケ圧等に気をつけて美しく爪にカラージェルを塗っていきます。	ジェルネイルの扱い方、ハケの扱い方を復習する。	1時間
第9回 ジェルネイル グラデーション相モデル ・グラデーションの技法を学び1色の色をクリアジェルで薄めて塗っていきます。 ・効率よく技術が進めれるように交互に施術していきま	ジェルネイルの扱い方、ハケの扱い方を復習する。	1時間
第10回 ジェルアート マーブル、タイダイ、大理石 ・マーブルとは、数色のカラージェルを使い、混ぜ方や使用する筆によってデザインが大きく異なります。技法を変えながら自分好みのマーブル模様を描いていきます。	実習したネイルアートを復習する。	1時間
第11回 ジェルアート ピーコック、ひょう柄、チェック ・ピーコックとは孔雀の意味です。孔雀の羽根の様な模様を描きます。 ・季節に合わせ秋になると人気の出るひょう柄アートを学びます。 ・チェックにも沢山の柄がありますが、今回は季節に合わせて冬に人気のツイードチェックを学びます。	実習したネイルアートを復習する。次回の授業に必要な道具を準備する。	1時間
第12回 サロンワーク実習①施術者orモデル ・サロン形式で授業を行い、お客様のオーダーを元にカウセリングを行い、ネイルケア～ジェルカラー～ジェルアートを施す。 ・カウセリングシート提出	カウセリングシートを完成させておく。次回の授業に必要な道具を準備しておく。	1時間
第13回 サロンワーク実習②施術者orモデル 12回の授業時のペアと交代制	次回から行う作品作成のテーマや構図を絞り込んでおくこと。	1時間

	<ul style="list-style-type: none"> ・サロン形式で授業を行い、お客様のオーダーを元にカウンセリングを行い、ネイルケア～ジェルカラー～ジェルアートを施す。 ・カウンセリングシート提出 		
第14回	課題作品構成 <ul style="list-style-type: none"> ・作品を作成するにあたりデッサン画を作成する。 ・テーマは各自で設定し、作品には必ずジェルアートを施すこと。 	次回、作品が提出出来るように進めておくこと。	1時間
第15回	定期試験 <ul style="list-style-type: none"> ・授業の集大成とし、10本のネイルチップに作品を完成させ、デッサン画と作品の説明を記入しネイルチップと共に提出する。 	使用したジェルや筆をしっかりとメンテナンスしておき、道具を大切に長く使用できるよう保存させましょう。	1時間
第16回			4時間

授業科目名	ブライダルコーディネート論				
担当教員名	竹下 由夏				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	神社、教会、外資系ホテル、国内ホテル、ゲストハウス、レストラン、フリースタイル、重要文化財、自宅婚…すべてのスタイルの結婚式を20年以上の実績でプロデュース。花嫁コンサル、企業コンサルとしてのアドバイザー業務。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

ブライダル/ウェディング業界の内容、結婚にまつわる（婚約から挙式・披露宴の流れや一般常識）基礎知識について学ぶ。ブライダルは伝統的な知識も必要であるが、時代の流れによりニーズ・流行の動きがある。その背景を理解し実践にてプランニング力を身につけ、ブライダルの勉強を通じて多種多様なビジネス、将来的にはプライベートでも応用できる内容を学ぶ。グループで協力しあう内容もあり、お互いに協調性・提案力を身につける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1. 幅広い教養やスキル	一般的なブライダルに関する多種多様な知識を得るための学び	社会に出るにあたって、準備として知っておくべき一般常識を含むブライダルの基礎を習得する。
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	花嫁目線で実践的内容の分析・理解	収集した情報や学んだ内容を元に、プロのプランナーと同等に話が出来るようになるくらいの資料を作成することができるようになる。
汎用的な力		
1. DP5. 計画・立案力		自身をモデルに実際の花嫁と同じ目線で計画をスクラップブックに作成する。
2. DP4. 課題発見		コロナ禍を経て今後の結婚式の新しい形式を模索する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内課題	評価の基準
	： 宿題発表・資料収集・制作物提出
40 %	
日常点	： 授業への参加態度（積極的参加・遅刻状況・素直さ・マナー）※私語、化粧、居眠り、携帯電話すべて厳禁
30 %	
定期試験	： 筆記試験
30 %	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

ゼクシー（毎月の月刊誌）
 ウエディングプランナーのための実践マニュアル
 THE THEORY OF BRIDAL BUSINESS 著書：三本賢治・谷藤進
 （株式会社ベネフィックスコンサルティング）
 ウエディングプランナーになる!? 著書：糸美奈子（秀和システム）
 結婚っておもしろい!? 著書：たかはしみき（主婦と生活社）
 和婚 花嫁衣装&和の結婚式新ルール 著書：飯田美代子（芸文社）
 婚約と結婚の手帳
 ー21世紀の結婚あなたの疑問に答えます（早わかりガイド） 監修：安部 トシ子
 大事なところをきちんと押さえる結婚の段取りとしきたり 監修：安部 トシ子

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 出講時
 場所： 授業終了後
 備考・注意事項： あらかじめ文面にて受付ます。必ず氏名・所属を書くこと。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーション（授業概要説明） 授業時に必要な物（スクラップブック等）の使用方法 授業内容の説明 スタンダードなウエディングを知ってもらう	<ul style="list-style-type: none"> まだ実感のないウエディングを少しでも身近な事として感じる為に、実際に結婚式を経験されたご両親やご兄弟や身近な人に、結婚式の事（準備期間や費用、大変だったこと）を聞いてレポートする。 	1時間
第2回 挙式・披露宴のスタイル 結婚式の流行と変遷（コロナ禍の結婚式について）、挙式スタイルの種類、婚礼会場の種類について学ぶ Webから自分がしてみたい会場を選ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 両親や兄弟や身近な人の中で、結婚式を経験された人に挙式スタイルを聞き流行についての下調べ、実際の会場（ホテル・ゲストハウス・レストラン）に新規パンフレットをもらいに行ったり、資料請求をしたりしてパンフレットを取り寄せる 	1時間
第3回 会場研究 第2回で資料請求して取り寄せた会場のパンフレットを見たり、HPを見ながら皆で研究をします	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身の結婚式で絶対にやりたくない事を10ヶ以上書き出しておく。 	1時間
第4回 冠婚葬祭 お祝い事とお悔みごとの違いや、婚約とは？ 結納とは？ 必要性も併せて学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 両親や兄弟や身近な人の中で実際に結納された方に当時の様子を聞きレポートする ・婚約指輪をもらうならどんなものが欲しいかをスクラップしたりデザイン画を描いてくる 	1時間
第5回 招待状・ペーパーアイテム 招待状のスタイルや意味、必要性、重要性を学ぶ お祝い切手とは？ その他ウエディングで使うペーパーアイテムの種類等を学ぶ 近年増えつつあるweb招待状のメリット・デメリットを理解する	<ul style="list-style-type: none"> 実際に自分の時の招待状の文面はどうするか？ デザインも考えてみる 	1時間
第6回 引出物・引菓子・プチギフト 引出物・引菓子・プチギフトとはどんな意味がありどんな種類があっってお値段帯は？等を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 自分の時には、引出物・引菓子・プチギフト（親族・会社関係・友人）を何にするのかこの物にするか等ご両親と話してみたりして考えてくる 	1時間
第7回 衣装・美容（洋装） 花嫁・花婿の婚礼衣装（洋装）、ご両親の衣装（洋装）の種類や常識を学ぶ 花嫁の美容について学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> どのような衣装（洋装）を着たいか、どんなヘアメイクをしたいかを考え、雑誌から切り抜いたりインターネットからプリントアウトしたりしてスクラップする 	1時間
第8回 衣装・美容（和装） 花嫁・花婿の婚礼衣装（和装）、ご両親の衣装（和装）参列衣装の種類や常識を学ぶ 花嫁の美容について学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> どのような衣装（和装）を着たいか、どんなヘアメイクをしたいかを考え、雑誌から切り抜いたりインターネットからプリントアウトしたりしてスクラップする 	1時間
第9回 装花全般・テーブルプラン 花嫁の持つブーケの種類や意味や内容を学ぶ その他パーティースタイルのテーブルプラン、テーブルコーディネートと会場装花についても学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> どんなブーケを持ちたいかを考え、雑誌やWebなどから切り抜いたりインターネットからプリントアウトしたりしてスクラップする 	1時間

第10回	プランニングステージの業務	<ul style="list-style-type: none"> ・実際にレストランに食事に行った際には、テーブルコーディネート等意識して見てみる・自分の時は何料理がいいか等家族で話してみてもとめてくる 	1時間
	会場の受付・お料理・お飲物・ウェディングケーキ、テーブルマナーの知識を身につける		
第11回	ブライダル商品の基礎知識	自分の ①生まれたての赤ちゃんの時の写真 ②幼少期(小学校低学年)の一番思い出深い写真 ③とびっきりの笑顔の写真 ④大嫌いな写真・見たくもない写真 ⑤今までで一番[思い出深い]写真 ※例:大切な人との写真など 計5枚を必ずスクラップブックに貼ってくる	1時間
	司会・演出・音楽(著作権)・写真・ビデオ等の基礎知識を身につける 挙式のBGM、讃美歌、披露宴のBGMを学び実際にあてはめてみる		
第12回	結婚式当日の流れ①	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃 食事に行った際のスタッフのサービスからブライダルのサービスについて、違いと関連のあるところを探求する・美容・衣装・装花・演出など、ブライダルの中で1番興味があることについて探求する 	1時間
	結婚式当日の施工・実施から ウェディングに携わる人(ウェディングプランナーを先頭に沢山のスタッフ)当日のサービススタッフのそれぞれの教務について学ぶ アテンダーの業務、式、サービスのマニュアル、婚礼会場を取り巻くビジネスについて学ぶ		
第13回	結婚式当日の流れ②	<ul style="list-style-type: none"> ・結婚式で使いたい音楽として選んだ曲の歌詞の意味等を考え、選んだ理由や好きな部分を書き出しておく・音源がある場合は次回持ってくる 	1時間
	結婚式当日一日の挙式・披露宴の流れや進行を学ぶ 司会進行をするMCの仕事も学ぶ		
第14回	プランニング実習	本日の計14回までの授業内容で、もう少し深く知りたい事や、学びたい事、もう一度聞きたい質問を考え書きだしてくる	1時間
	実際の新郎新婦が打合せ時に使う進行表に、音楽や進行をプランニングしてみる。仕上げて発表できるように準備する スクラップブック完成提出		

授業科目名	染色加工学				
担当教員名	澤田 和也				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可」

授業概要

我々の身のまわりには非常に多くの染色された衣料品があり、その色彩は、デザインや柄と共に衣料品を評価する際の非常に重要な要素の一つである。一方、染色と言ってもその手法やメカニズムは多岐にわたり極めて複雑である。本授業では、このような日常生活と密接に関連している衣料品の染色についての理解を深めるため、「色の特性」、「染料の構造と特徴」、「染色後の種々の堅牢性」、「伝統工芸染色と工業染色」、「種々の加工方法」、「未来の染色技術」などについて、染色加工工程全般に関しての概略を説明する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

染色プロセスの中でも特に、染着性の特性差に重点を置き、その内容についての専門知識を身に付けることができる。

目標：

染色物の色落ち、色泣き、脱色、退色、汚染現象について、その現象を自身で考え原因究明ができるまでの能力を身に付けることができるようになる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見

染色加工工程で生じる諸現象について、現状も問題点と将来への課題を考察する能力を身に付けることができるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

ミニレポート	30 %	:	毎回5点満点として14回実施し、総計を30点満点に換算する。自己の考えを含めて詳細に記載されている（5点） 講義内容のみから記載されている（3点） 論点が的確ではない。（1点）
特定テーマに対する課題考察力	30 %	:	2回実施する特定テーマに対する解決策を探る課題に対して15点×2回の30点満点で評価する。社会的背景も含めて考察出来ている（20点） 授業内容のみで考察出来ている（10点）
定期試験	40 %	:	学期末に染色に関連する知識の理解度についての試験を実施する。筆記だけでなく、プレゼンテーションを含めた総合的な内容の試験とし、40点満点として成績評価に加える。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- 「ファッションと化学」日本化学会編（大日本図書）
「染色概説」矢部章彦・林雅子（光生館）

「繊維材料にフォーカスした生活材料学」榎本雅穂（アイ・ケイコーポレーション）

履修上の注意・備考・メッセージ

日常生活において生じる着色された衣料品のさまざまなトラブルに対して、普段何気なく見過ごしている現象を再認識し、それを防ぐことも視野に入れた授業でもある。本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日（1限）
場所： 生活デザイン第1研究室
備考・注意事項： オフィスアワー以外でも在室時にはいつでも対応します。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 染色の基礎事項（色素材料） 衣服の染色に用いる染料と、着色に用いる顔料の相違は何か、両者により色付けされた衣料品はどのような特徴があるかについて説明し、色素と染色の概略を解説する。	染料と、顔料の違いを明確に説明できるようになる。	4時間
第2回 染色のための前処理 染色のために行われている精練や漂白等の前処理を行う意味について理解する。これらの工程を省いた場合にどのような影響が出るかを理解できるように解説する。	なぜ、染色の前処理工程が必要かについて理解し、復習しておく。	4時間
第3回 染色における水 染色後に排出される大量の汚染排水について考える。過去と現在の状況を解説し、着色排水の処理にどのような工夫がなされているかについて解説する。	以前と現在の染色排水と環境汚染の問題、将来の課題について考えることができるようになる。	4時間
第4回 染料の種類と特徴 様々な種類に分類される染料を系統的に分類して、その特徴を説明する。特に、天然染料と化学染料の類似点と相違点について重点をおき解説する。	染料の構造上の分類分けができるようになる。	4時間
第5回 染料染色について（直接染料、建染染料、ナフトール染料、硫化染料、反応染料） 直接染料、建染染料、ナフトール染料、硫化染料、反応染料のそれぞれの特徴について解説し、繊維との染着メカニズムについて解説する。	繊維と染料の組み合わせが極めて重要であることを理解し、そのようなメカニズムで染料が繊維に対して染着しているかを理解する。	4時間
第6回 染料染色について（酸性染料、酸性媒染染料、金属錯塩酸性染料） 酸性染料、酸性媒染染料、金属錯塩酸性染料のそれぞれの特徴について解説し、繊維との染着メカニズムについて解説する。	繊維と染料の組み合わせが極めて重要であることを理解し、そのようなメカニズムで染料が繊維に対して染着しているかを理解する。	4時間
第7回 染料染色について（カチオン染料、分散染料） カチオン染料、分散染料のそれぞれの特徴について解説し、繊維との染着メカニズムについて解説する。	繊維と染料の組み合わせが極めて重要であることを理解し、そのようなメカニズムで染料が繊維に対して染着しているかを理解する。	4時間
第8回 染色加工（セルロース系繊維の浸染） 天然繊維の全体染めである、浸染手段について概説する。特に、セルロース系の繊維を染色する際の工程の特徴について解説する。	染料の種類だけでなく、繊維の種類によっても染色手段が変わることを理解する。	4時間
第9回 染色加工（タンパク質系繊維の浸染） 天然繊維の全体染めである、浸染手段について概説する。特に、タンパク質系の繊維を染色する際の工程の特徴について解説する。	染料の種類だけでなく、繊維の種類によっても染色手段が変わることを理解する。	4時間
第10回 染色加工（アクリル系繊維の浸染） 化学繊維の全体染めである、浸染手段について概説する。この授業では、アクリル系繊維の染色にターゲットを絞り、その染色工程について解説する。	同じ浸染でも天然繊維とことなる染色について理解する。	4時間
第11回 染色加工（ポリエステル系繊維の浸染） 化学繊維の全体染めである、浸染手段について概説する。この授業では、合成繊維の染色にターゲットを絞り、その染色工程について解説する。	同じ浸染でも天然繊維とことなる染色について理解する。	4時間
第12回 染色加工（捺染） プリント染と呼ばれる、捺染の技術について講義する。特に、フラットスクリーン捺染、ローラー捺染等、代表的な捺染の手段について解説し、それぞれの手段の詳細について触れる。	浸染と捺染の相違を理解する。	4時間
第13回 染色加工（印刷） 近年需要が拡大されているインクジェット染色の概要について講義する。従来の顔料による印捺との相違や今後の展望等を解説する。	従来と異なる新しい染色法であるインクジェット染色の特徴を理解できるようになる。	4時間

第14回

将来の染色技術

現在研究されている新しい染色技術、あるいは試験的にすでに実用化されている将来の染色技術について概説する。

現在の染色の問題点等を理解し、今後の方向性を考えることができるようになる。

4時間

授業科目名	ファッション総合演習B				
担当教員名	米谷 三沙子・伊東 義輝				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

企業や地域と連携した事業活況について実践的に学ぶ授業を実施する。そのため、対象となる企業や地域の業種や特性について事前リサーチを行うと共に、それをもとにした現地で実施研修と実践作業を行い、最終的にその成果について実施研修後に総括を行う。対象企業・地域は、国内とし、業種についてはデザインに関連ある全ての内容を対象として実施する。また、一つの授業内での対象企業は、複数であることも想定し、それに合わせた時間配分と研修内容をアレンジする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル
- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

- 研修先の企業・地域の文化を学ぶ
研修先の各企業や地域の特徴的な文化を学ぶ

目標：

- 歴史とデザイン文化を連動させて理解し興味が深まるようにする
研修先の企業や地域の文化の違いを理解できるようになる

汎用的な力

- DP6. 行動・実践
- DP9. 役割理解・連携行動

- 事前に学んだ現地における基礎知識をもとに研修先で主体的に行動する
事前に学んだ研修先での行動について、自らの役割及び連携すべき内容を正しく実践できる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・ディベート、討論
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業の取り組み姿勢・熱意	20 %	：	授業における取り組み姿勢及び熱意について評価する。
現地での取り組み姿勢	60 %	：	研修先で積極的に学ぶ姿勢のほか、ルールの順守、メンバーとの協調性等、研修先での取り組みを総合的に評価する
事後における発表	20 %	：	現地での実施研修を受けてのプレゼンテーション内容の評価

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

内容に応じて別途指示

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 導入ー研修企業や団体について 研修の導入として、訪問する企業や団体の過去から現在に至るまでの、風土や文化についてレクチャーを聴く。	独自の研修ノートをつくり、授業で聴いたことを軸にして、自らの学びをまとめる	4時間
第2回 研修先の企業や団体を知る 研修先の企業や団体について、自分自身でその業務内容や活動履歴等をリサーチし、今回の研修で学ぶべきテーマについて事前調査を行う。	研修ノートの更新	4時間
第3回 企業内・地域内業務の学修 体験実習に向けての心がまえ、守秘義務について学修し、自分自身の目標設定も行います。そのうえで企業・地域に提出するための誓約書の作成を行います。事前訪問に際しての注意事項や集合場所を確認します。	当日の研修内容と反省点、良かった点を研修ノートに記録する	4時間
第4回 研修先事前訪問 研修先の企業・地域を事前訪問し、研修内容の確認、注意事項について学ぶ。	当日の研修内容と反省点、良かった点を研修ノートに記録する	4時間
第5回 現地研修プログラム1 各企業や団体内での実施計画プログラムに従い、現地での研修を行う。	当日の研修内容と反省点、良かった点を研修ノートに記録する	4時間
第6回 現地研修プログラム2 各企業や団体内での実施計画プログラムに従い、現地での研修を行う。	当日の研修内容と反省点、良かった点を研修ノートに記録する	4時間
第7回 現地研修プログラム3 各企業や団体内での実施計画プログラムに従い、現地での研修を行う。	当日の研修内容と反省点、良かった点を研修ノートに記録する	4時間
第8回 現地研修プログラム4 各企業や団体内での実施計画プログラムに従い、現地での研修を行う。	当日の研修内容と反省点、良かった点を研修ノートに記録する	4時間
第9回 現地研修プログラム5 各企業や団体内での実施計画プログラムに従い、現地での研修を行う。	当日の研修内容と反省点、良かった点を研修ノートに記録する	4時間
第10回 現地研修プログラム6 各企業や団体内での実施計画プログラムに従い、現地での研修を行う。	当日の研修内容と反省点、良かった点を研修ノートに記録する	4時間
第11回 現地研修プログラム7 各企業や団体内での実施計画プログラムに従い、現地での研修を行う。	当日の研修内容と反省点、良かった点を研修ノートに記録する	4時間
第12回 研修を振り返っての資料まとめ 研修で学んだこと、体験したことをまとめて、付加的に調べた情報も加えながら、発表資料を作成していく。	報告のための資料作成をしっかりとしておく	4時間
第13回 グループ討議 事前に設定しておいた内容を。グループごとに発表内容を報告しあい、更なるブラッシュアップを図っていく	グループ内での意見をフィードバックしながら、自分の発表資料を完成させていく	4時間
第14回 報告会 研修を通じて学んだこと、体得したことなどを、報告会の場で個別に発表していく。発表にはパワーポイントを用いて、わかりやすく、伝わりやすい報告を実施する。	自らの報告の出来不出来を客観的にとらえ、レポートにまとめていく	4時間

授業科目名	インテリアコーディネート論				
担当教員名	青木 順子				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	一級建築士として住宅設計を行っている				

開放科目の指示：「可」

授業概要

インテリアコーディネートをするには、感性だけでなく膨大な商品知識が必要です。インテリアの色彩・素材・空間に関する知識を身につけると空間の細部が見えるようになります。今まで感性だけで評価していた空間構成を理論的に理解することが出来、その知識を土台に更に感性を生かすことが出来るようになります。またインテリアに必要な各種の図面の読み取りを習得して、図面を理解し、心地よい暮らしの空間の提案や創造ができる技術を学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解	インテリア・建築に関する知識	空間に使用されている材料や商品の名称が分かり、自らも空間を提案することができる。
汎用的な力		
1. DP7. 完遂		学んだ知識を利用して空間の提案を完成することができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

受講状況	30 %	：	受講態度（受講マナーや私語、携帯電話の使用などは減点）、授業で使用するプリントへの書き込み、授業内でのレポート作成などを独自のルールを基に総合的に評価する
課題	40 %	：	5回の演習課題とレポートに対して各回5～10点、合計50点満点で評価する。基準に満たない提出物は合格するまで再提出をする。
定期試験	30 %	：	授業で学んだ内容についての知識や理解力を問います

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
宮後 浩	・やさしいインテリアコーディネート	・学芸出版社	・2008 年

参考文献等

「インテリアの計画と設計」彰国社
「インテリアコーディネーターハンドブック技術編」産業能率大学出版部
「はじめてのインテリアコーディネート」学芸出版社

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習する。
 次回授業の予習としてテキストに目を通し、既知の知識と未知の知識を判別し学習すべき内容を明確にしてから授業に出席すること。
 授業内マナーを守ること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の後
 場所： 授業時の教室

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 授業概要説明、インテリアコーディネートとは 今後の授業の進め方と評価の方法を説明する。 インテリアコーディネートとは、インテリアコーディネーターの仕事とは何かを知る。 学生のインテリア用語の知識を調査する	レポート課題（知らない用語の説明）	4時間
第2回 インテリアコーディネーションに必要な6つの要素 インテリアコーディネーションに必要な6つの要素について、ひとつずつ詳しく理解する。	次回に該当するテキスト（P7）の通読	4時間
第3回 色彩①色彩の基本 色相・彩度・明度の基礎を学ぶ それらの差異によっておこる様々な効果について理解する。 配布された材料を使ってトーン図を作成する。 トーンとイメージが結びつくように演習を行う。 作成したトーン図にあうようにイメージワードを書き込む	次回に該当するテキスト（P10～P12）を通読	4時間
第4回 色彩②色で感じるイメージ 色が人体に本能的に、また、心理的に及ぼす影響を学ぶ。 トーンを中心に色彩計画を考える。	課題（カラースキーム）（照明器具グッズ）	4時間
第5回 色彩③カラースキーム（色彩計画） 室内空間を色彩計画する基本ルールを学ぶ。 自分でイメージを設定した空間を着色する	課題（カラースキーム）	4時間
第6回 照明①日本のあかり、照明の種類 「陰影礼賛」より日本のあかりの歴史について学ぶ。陰影の魅力を探る。 照明器具の取り付け方による分類とその名称を理解する	回りの資料の読解、自宅照明器具のトレース	4時間
第7回 照明②照明の使い方 照明器具の光源（ランプ）の種類と特徴を学ぶ。 有名なデザインのペンダント照明を知る。照明の図面を読み解く。	課題（製図）	4時間
第8回 照明③配線図面作成 配線図面の記号を学ぶ。あたえられた課題の部屋に照明を計画し、図面に表記する	課題（製図）	4時間
第9回 インテリアの仕上材①仕上表 仕上げ表の見方を学ぶ。仕上材選定の注意点を理解する。 内装（床・壁・天井）に使用される種々材料を知る。	次回資料プリントの通読	4時間
第10回 和室の構成、インテリアの仕上材②畳 伝統的な和室の造りについて学ぶ。 畳の歴史、使われ方、自然素材ゆえの長所・欠点を理解する	和室を構成する部材の名称の理解	4時間
第11回 インテリアの仕上材③伝統的な建具 伝統的な建具（襖・障子）の自由な設計、素材、現代での利用について学ぶ	課題（障子のデザイン）	4時間
第12回 インテリアの仕上材④木 日本の森林の現状を知る。仕上材に使用される多種多様な天然の木材の特徴について理解する。 サンプルに触れることで印象を深める。仕上げ表の見方を学ぶ。	次回該当テキストを通読する	4時間
第13回 インテリアの仕上材④左官・クロス 伝統的塗り壁の特徴を知る。左官のDVDを視聴しレポート作成 クロスが普及した原因と長所を考える サンプルを見て触ることで印象を深める	課題（店舗のインテリアについて）	4時間
第14回 家具（椅子） 著名な椅子、歴史的に有名な椅子など様々な椅子について学ぶ。 今回までの授業の復習。	定期試験に向けての学習	4時間

授業科目名	ファッションコーディネート論				
担当教員名	小谷 秀子				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	元アパレルデザイナー。その後、服飾専門学校専任講師となり、現在はパーソナルカラー&パーソナルスタイリングの指導および企業研修等を担当。(全14回)				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

ファッションコーディネート論では、スタイリングの際に必要なシルエット・ディテール・カラー・素材の組み合わせ方を学びます。お似合いになるアイテム選びの他に体型カバーのコーディネートテクニックを習得することで幅広いスタイリング力を身につけることができます。また、お客様のファッションニーズを把握するためファッション感性（タイプ別、年齢別）やスタイリング全体のイメージを表すルックスなどコーディネートの専門知識を学ぶことができます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力 コーディネートに必要な専門知識

目標：

コーディネートに必要な4つの要素を理解し、トータルコーディネート提案できる技術を身につける

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP5. 計画・立案力
3. DP5. 計画・立案力

体型カバーを理解し、幅広いコーディネート力を身につける。

お客様のファッションニーズを理解し、コーディネート提案できる。

パーソナルカラーを知ることでその人に似合うカラーコーディネート力を身につける

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業への取り組み	20 %	：	授業への積極的参加（レポート提出含む）、授業態度（受講マナーや私語、忘れ物、携帯電話など授業の妨げになる場合は減点）を総合的に評価する。
課題提出	30 %	：	クラスルームを使用したペーパープランの作成。
プレゼンテーション能力	20 %	：	体型カバーの演習にて具体的に分かりやすく効果を取り入れ、コーディネート説明ができているか評価する。
定期試験		：	「ファッション用語」「体型カバー」「パーソナルカラー」を主とした内容の試験を行い、授業内容の理解度を評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

コーディネートテクニック 演出編／文化服装学院／文化出版局

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後
場所： 授業時の教室
備考・注意事項： 質問は授業の前後に対応します。

授業計画

学修課題

授業外学修課題にか かかる目安の時間

第1回	オリエンテーション・コーディネートの概要とファッション用語 講師紹介、シラバスの説明を行う。 その後、コーディネートの必要性と役割・ファッション用語を解説。またライフスタイルを理解し、「オケージョン別のスタイル」をペーパープランにて作成する。	ファッション用語を覚えてくる。またオケージョンスタイルを作成する。	4時間
第2回	アイテムの理解 コーディネート説明に必要なアイテムの知識、ディテール、シルエットの違いをパワーポイントにて解説。コーディネートにおいてどのような役割、効果があるのか解説する。	配布したプリントを覚えてくる。	4時間
第3回	デザインの選び方 服のディテールによるファッションイメージの違いを分析する。「デザインの選び方」をテーマにペーパープランを作成する。	ペーパープランを仕上げる。配布したプリントのディテール名やアイテム名を覚える。	4時間
第4回	素材の組み合わせ方 同素材、異素材の組み合わせ・プリント柄の選び方・質感によるファッションイメージの違いを理解する。その後、「柄の選び方」のペーパープランを作成する。	ペーパープランを仕上げてくる。色の三属性、色相環、トーンの復習をしておく。	4時間
第5回	カラーコーディネート 色の知識を復習後、色の組み合わせ方とその特徴を理解する。カラーコーディネートでよく取り入れる配色をパワーポイントにて解説する。また、次回を行うパーソナルカラーについて説明。	婦人服売り場のカラーコーディネートをリサーチしてくる。	4時間
第6回	人を対象としたカラー選び 実際にカラードレップを使い、色がどのように顔色を変化させるのかデモンストレーションをしながら解説する。また「パーソナルカラーの4シーズン別」のペーパープランを作成する。	ペーパープランを4枚完成させる。	4時間
第7回	アクセサリーの知識と演習 パーソナルカラーの取り入れ方を復習後、アクセサリーの選び方と注意点を学び、その後スカーフ・ストールの巻き方を演習する。	配布したプリントのアクセサリーの知識を覚えてくる。また巻物の実技内容を復習する。	4時間
第8回	服飾小物の知識 靴、鞆、帽子、メガネなど服飾小物の知識と選び方を解説。	小物アクセサリーのペーパープランを仕上げる。	4時間
第9回	主なファッションタイプと年齢によるコーディネートの嗜好の違い ファッションタイプ・マインドエイジ・ファッション感性8分類について学び、嗜好の違いを理解する。	ファッション感性8分類のペーパープランを作成する。またタイプ別に婦人服売り場をリサーチしてくる。	4時間
第10回	体型カバーのコーディネートテクニック① 体型を全体的な角度、部分的な角度でチェックしスタイルアップに繋げる方法をパワーポイントにて説明。その後、体型カバーを取り入れたペーパープランを作成する。また次回の体型カバーのプレゼンテーションに向け事前チェックおよびアドバイスをを行う。	体型カバーのコーディネートを復習し、プレゼンテーションの準備を行うこと。	4時間
第11回	体型カバーのコーディネートテクニック② 実際に体型カバーのコーディネートを2スタイリング制作し、プレゼンテーションを実施し評価する。	体型カバーのペーパープランを完成させる。	4時間
第12回	メンズのコーディネート	メンズの着こなしの違いをペーパープランで作成。メンズの売り場をリサーチしておくこと。	4時間

	<p>メンズファッションについてフォーマルからタウンまでの着こなし方を解説。またジャケットの種類・スーツの選び方について学ぶ。演習ではネクタイの結び方、ポケットチーフの折り方を行う。</p>		
第13回	<p>様々なルックス</p> <p>着こなしの表現方法を様々なルックスから捉える。</p>	授業内容と返却されたペーパープランを総復習する。	4時間
第14回	<p>ファッショントレンドの取り入れ方</p> <p>春夏ファッショントレンドを解説後、総復習を兼ね春物で流行りそうなアイテムを考え、ディテール、シルエット、色、素材、全体のスタイルをレポートにまとめる。</p>	婦人服売り場にて春物をリサーチしてくる。	4時間
第0回			0時間

授業科目名	ファッション総合演習A				
担当教員名	澤田 和也・伊東 義輝・百々 徹・米田 三沙子				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

企業と連携した事業活況について実践的に学ぶ授業を実施する。そのため、対象となる企業や業種について事前リサーチを行うと共に、それをもとにした現地で実施研修と実践作業を行い、最終的にその成果について実施研修後に総括を行う。対象企業は、国内外を問わず、また業種についてもアパレル・ファッションに関連ある全ての内容を対象として実施する。また、一つの授業内での対象企業は、複数であることも想定し、それに合わせた時間配分と研修内容をアレンジする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル
- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

- 研修先の国の歴史、衣生活文化を学ぶ
- 研修先の各地域のファッションの特徴的な文化を学ぶ

目標：

- 歴史と衣生活文化を連動させて理解し興味が深まるようにする
- 研修先の国や地域の文化と日本の違いを理解できるようにする

汎用的な力

- DP6. 行動・実践
- DP9. 役割理解・連携行動

事前に学んだ現地における基礎知識をもとに研修旅行先で主体的に行動する

事前に学んだ研修旅行先での行動について、自らの役割及び連携すべき内容を正しく実践できる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・ディベート、討論
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業の取り組み姿勢・熱意

： 授業における取り組み姿勢及び熱意について評価する。

20 %

現地での取り組み姿勢

： 研修先で積極的に学ぼうとする姿勢のほか、ルールの順守、メンバーとの協調性等、研修先での取り組みを総合的に評価する

60 %

事後における発表

： 現地での実施研修を受けてのプレゼンテーション内容の評価

20 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

内容に応じて別途指示

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日（1限）
場所： 生活デザイン第1、2、3研究室

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 導入ーパリはなぜファッションの都か？ パリ海外研修の導入として、ルイ王朝時代から現在に至るまでの、フランス並びにパリにおけるファッションに関する文化と産業の来し方について、レクチャーを聴く。	独自の研修ノートをつくり、授業で聴いたことを軸にして、自らの学びをまとめる	4時間
第2回 パリのファッションに関する調査 ファッションの中心地であるパリについて、オートクチュールやプレタポルテを始めとしたファッション産業の現状について、自分の興味のあるブランドを決めて、そのブランドを軸として幅広く調査する。	調査内容を研修ノートにまとめる	4時間
第3回 パリの街の形成 19世紀におけるパリの大規模な都市改造について、その歴史的背景と現在でも見ることが出来る街並みにどのような片鱗が残っているのか、NHKの番組を見ながら学んでいく。	パリの街の中で、自分が興味のある場所を決めて、その歴史的背景について調べて、ノートにまとめる	4時間
第4回 ヴェルサイユ宮殿について ヴェルサイユ宮殿を実際に訪れて、その特徴や歴史的な要点などを実体験を通して学んでいく。	ヴェルサイユ宮殿で見聞きしたことを、研修ノートにまとめておく	4時間
第5回 イヴ・サンローラン美術館について イヴ・サンローラン美術館を訪れ、彼が1960年代に端を発して、パリを始め世界中のファッションに与えた影響とその構成について学んでいく。	イヴ・サンローランについて、事前にしっかり調べてノートにまとめておき、現地で学んだことと照らし合わせて、人物像をつかんでいく	4時間
第6回 ルーブル美術館での服飾史研究 パリにあるルーブル美術館を訪れ、古代オリエントから19世紀に至るまでの絵画や彫刻を鑑賞しながら、西洋の服飾史について学んでいく。	服飾史の中で、自分が特に興味のある時代やスタイルを事前に設定し、調べておく。また鑑賞後はそれを合わせてまとめておく	4時間
第7回 パリ装飾美術館での展覧会鑑賞 その時期にパリ装飾美術館にて開催中の展覧会を見ながら、装飾やインテリアなど広義のファッションについて学んでいく。	展覧会の対象となるテーマや様式について、事前にしっかりと調べて把握しておく	4時間
第8回 パリ・ガリエラ美術館・モード&コスチューム美術館 ガリエラ宮殿跡にあるモード&コスチューム美術館を訪れ、その時期に開催しているファッションに関する展覧会を鑑賞する。	事前に鑑賞予定の展覧会とそのテーマについて、しっかりと調査し、ノートにまとめておく	4時間
第9回 AICPについて パリで150年以上の歴史を誇るモードの養成学校AICP（ACADEMIE INTERNATIONALE DE COUPE DE PARIS）を訪問し、パリでのファッション教育の現状や卒業生の現在の活躍などについて話を伺う。	AICPについて、事前に調べて、研修ノートにまとめておく	4時間
第10回 パリのVMDについて プランタン百貨店やギャラリー・ラファイエなどオスマン通りにある世界最高峰の百貨店を訪問し、最先端のVMD（ヴィジュアル・マーチャンダイジング）について学ぶ。	事前に、それぞれの百貨店の歴史の変遷とどのようなブランドが入っているのかをしっかりと調べておく	4時間
第11回 フォンダシオン・ルイヴィトンについて パリ郊外にあるルイヴィトン財団が所有するフォンダシオン・ルイヴィトンを訪れ、開催中の展覧会やフランク・ゲイリーによるポストモダン建築を視察する。	事前にルイ・ヴィトンの歴史や現在の取り組みなどについてしっかりと調べて、研修ノートにまとめておく	4時間
第12回 研修を振り返っての資料まとめ 帰国後、パリ海外研修で学んだこと、体験したことをまとめて、付加的に調べた情報も加えながら、発表資料を作成していく。	報告のための資料作成をしっかりとしておく	4時間
第13回 グループ討議 事前に設定しておいたグループごとで、発表内容を報告しあい、さらなるブラッシュアップを図っていく	グループ内での意見をフィードバックしながら、自分の発表資料を完成させていく	4時間
第14回 報告会	自らの報告の出来不出来を客観的にとらえ、レポートにまとめていく	4時間

パリ海外研修を通じて学んだこと、体得したことなどを、報告会の場で個別に発表していく。発表にはパワーポイントを用いて、わかりやすく、つたわりやすい報告を実施する。

授業科目名	Eコマース基礎				
担当教員名	島田 愛				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	DTP及びWEB、EC関連のデザイン制作に携わり、令和1年より独立してデザイン業務を行い、現在に至っている。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

昨今のファッション業界において必須であるインターネット上での商品販売に関する基礎知識と、業界標準アプリを用いた商品画像の制作を学びます。
Eコマースでの販売では衣類・アクセサリ・雑貨などの商品そのものを直接手に取って吟味することができないため、いかにサイト上で商品の魅力伝えるかが重要になります。
ブランド・商品画像・商品写真・説明文・バナーなど、お店づくりで必要になるデザインアイテムをAdobe IllustratorとPhotoshopを使って実際に制作しながら習得します。
最終的にはEコマースサービスのBASEを用いてサイトを制作し、発表します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル
2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

Eコマースサイトを通してファッションブランドを育て、商品の魅力を発信していくための理解と知識の習得。
Eコマースサイトで用いる具体的なアイテムを自ら制作することにより、Eコマースの活用に関する基礎知識の習得と理解。

目標：

汎用的な力

1. DP6. 行動・実践

ブランドイメージや情報を意図通りにビジュアル化し、他者に伝えること

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」とします。
また、授業内で課題制作をしますが、全て提出してください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

提出された授業内課題	：	授業内での理解度、制作態度、及び制作物に対するの評価をします。
90 %		
期末プレゼンテーション	：	授業内課題を総括して各自がプレゼンテーションを行い、それに対するの評価をします。
10 %		

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

図解即戦力 EC担当者の実務と知識がこれ1冊でしっかりわかる教科書 株式会社これから
かんたんフォトLife これからはじめる 商品撮影の教科書 長谷川 修

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業時間の前後

場所： 教室にて

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかると見られる目安の時間
第1回 Eコマースとは Eコマースの現状についての基礎知識	実際に世の中にあるEコマースサイトの中から各々の「好きなデザインの」サイトを5個検索実際に世の中にあるEコマースサイトの中から各々の「実際に買い物したことがある」サイトを5個検索	2時間
第2回 オリジナルブランドサイトの登録 Eコマースのサービス『BASE』の無料プランを登録し、実際にサイトの登録実習 ECサイト登録に関する基礎知識	授業内容の復習	2時間
第3回 オリジナルブランドサイトのバナーデザイン1 制作実習 前回登録したオリジナルブランドサイト内で使用するバナーをIllustratorやphotoshopなどのアプリケーションを使用して、デザイン制作実習 Eコマースサイトのバナーデザインに関する基礎知識	授業内容の復習	2時間
第4回 オリジナルブランドサイトのバナーデザイン2 制作実習 オリジナルブランドサイト内で使用するバナーをIllustratorやphotoshopなどのアプリケーションを使用して、デザイン制作実習 デザイン表現を考察する	授業内容の復習	2時間
第5回 オリジナルブランドサイトのバナーデザイン プレゼンテーションとブラッシュアップ 前回の実習制作したバナーについてプレゼンテーション表現の客観的な分析を行い、反省点を踏まえてブラッシュアップを行う グループディスカッション	反省点を踏まえて、授業で制作したバナーの別パターンをIllustratorやphotoshopなどのアプリケーションを使用して、デザイン制作	2時間
第6回 商品ページの基礎 Eコマースにおける接客の役目をもつ商品ページをはじめとした、各種サイト内ページの基礎知識を学ぶ。	授業内容の復習	2時間
第7回 商品撮影実習 デジタルカメラやスマートフォンのカメラ機能などを使って、商品の魅力を伝えられる写真の撮影実習。 Eコマースサイトにおける写真の役割や撮影方法に関する基礎知識。	授業内容の復習	2時間
第8回 オリジナルブランドサイトの商品ページデザイン 制作実習 自分で制作したファッションや雑貨などをオリジナルブランドサイトで販売すると仮定し、商品の魅力が伝えられる商品ページをIllustratorやphotoshopなどのアプリケーションでデザイン制作実習 Eコマースサイトにおける商品ページの役割や基礎知識の習得	授業内容の復習	2時間
自分で制作したファッションや雑貨などをオリジナルブランドサイトで販売すると仮定し、商品の魅力が伝えられる商品ページをIllustratorやphotoshopなどのアプリケーションでデザイン制作実習 授業で撮影した商品写真をphotoshopを用いてレタッチ実習		
第10回 オリジナルブランドサイトの商品ページデザイン プレゼンテーション これまでの実習で制作した商品ページについてプレゼンテーション表現の客観的な分析を行い、反省点を踏まえてブラッシュアップを行う グループディスカッション	反省点を踏まえて、授業で制作したページ	2時間
第11回 オリジナルブランドサイトデザイン1 制作実習 第2回で登録したBASEサイトを用い、トップページなどのデザイン制作を行う。	授業内容の復習	2時間
第12回 オリジナルブランドサイトデザイン2 制作実習 第2回で登録したBASEサイトを用い、トップページなどのデザイン制作を行う。	授業内容の復習	2時間
第13回 オリジナルブランドサイトデザイン3 制作実習 第2回で登録したBASEサイトを用い、トップページなどのデザイン制作を行う。	授業内容の復習	2時間

第14回	オリジナルブランドサイトデザイン プレゼンテーション	反省点を踏まえて、授業で制作したオリジナルサイトのデザインを修正／改良	2時間
これまでの実習で制作したオリジナルブランドサイトについてプレゼンテーション 表現の客観的な分析を行い、反省点を踏まえてブラッシュアップを行う グループディスカッション			

授業科目名	Eコマース実践				
担当教員名	島田 愛				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	DTP及びWEB、EC関連のデザイン制作に携わり、令和1年より独立してデザイン業務を行い、現在に至っている。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

昨今のファッション業界において必須であるインターネット上での商品販売に関する基礎知識と、業界標準アプリを用いた商品画像の制作を学びます。
Eコマースでの販売では衣類・アクセサリ・雑貨などの商品そのものを直接手に取って吟味することができないため、いかにサイト上で商品の魅力伝えるかが重要になります。
ブランド・商品画像・商品写真・説明文・バナーなど、お店づくりで必要になるデザインアイテムをAdobe IllustratorとPhotoshopを使って実際に制作しながら習得します。
最終的にはEコマースサービスのBASEを用いてサイトを制作し、発表します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル
2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

Eコマースサイトを通してファッションブランドを育て、商品の魅力を発信していくための理解と知識の習得。
Eコマースサイトで用いる具体的なアイテムを自ら制作することにより、Eコマースの活用に関する基礎知識の習得と理解。

目標：

汎用的な力

1. DP6. 行動・実践

ブランドイメージや情報を意図通りにビジュアル化し、他者に伝えること

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」とします。
また、授業内で課題制作をしますが、全て提出してください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

提出された授業内課題	：	授業内での理解度、制作態度、及び制作物に対するの評価をします。
90 %		
期末プレゼンテーション	：	授業内課題を総括して各自がプレゼンテーションを行い、それに対するの評価をします。
10 %		

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

図解即戦力 EC担当者の実務と知識がこれ1冊でしっかりわかる教科書 株式会社これから
かんたんフォトLife これからはじめる 商品撮影の教科書 長谷川 修

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は前期後期の1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業時間の前後

場所： 教室にて

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかると自らの時間
第1回 参考サイトの探し方、フリー素材の活用 自分のオリジナルブランドサイトと競合になりうる他のサイトを探し出し、サイトのデザイン改善やトレンドの分析に活用する術を学び、グループディスカッション。フリー素材サイトの紹介、フリー素材の活用方法や使用時の注意点などの基礎知識。	授業内容の復習	2時間
第2回 広告・SNSの活用について オリジナルサイトの存在を購入者に広く知らせたり、ブランドの潜在的なファンを増やすなどの集客に不可欠なインターネット上に出す広告とSNSの運用に関する基礎知識	授業内容の復習	2時間
第3回 Instagram広告デザインパナー 1 制作実習 多くのファッションサイトが集客に活用しているSNSであるInstagramの中に、広告を出す想定を元に、オリジナルブランドサイトの広告パナーデザイン制作を行う。	授業内容の復習	2時間
第4回 Instagram広告デザインパナー 2 制作実習 多くのファッションサイトが集客に活用しているSNSであるInstagramの中に、広告を出す想定を元に、オリジナルブランドサイトの広告パナーデザイン制作を行う。	授業内容の復習	2時間
第5回 Instagram広告デザインパナー プレゼンテーション これまでの実習で制作した広告パナーについてプレゼンテーション。表現の客観的な分析を行い、反省点を踏まえてブラッシュアップを行うグループディスカッション	反省点を踏まえて、授業で制作した広告パナーのデザインを修正/改良	2時間
第6回 サイト周知・広報活動の収集実習 世の中に存在するEコマースサイトのさまざまな集客方法を探し、分析する。グループディスカッション	授業内容の復習	2時間
第7回 グループ制作のオリジナルブランドサイト 登録実習 卒業制作のグループ単位でコンセプトやターゲットを選出し、BASEの無料プランを使ってオリジナルブランドサイトを登録する。	授業内容の復習	2時間
第8回 モデル撮影実習 ファッションECで重要なモデルを使った商品写真の撮影に関する基礎知識。デジタルカメラやスマートフォンのカメラ機能などを使って、商品の魅力を伝えられる写真の撮影実習モデル撮影実習	授業内容の復習	2時間
第9回 ブランディングを活用したセールスライティング ブランディングやベネフィットなど、ブランドの魅力を正しく伝えるための基礎知識。それらを活用したキャッチコピーや商品説明文のグループディスカッション	授業内容の復習	2時間
第10回 グループ制作のオリジナルサイト商品ページデザイン 1 制作実習 商品の魅力が伝えられる商品ページデザインに関する基礎知識。グループで商品ページデザイン制作実習	授業内容の復習	2時間
第11回 グループ制作のオリジナルサイト商品ページデザイン 2 制作実習 商品の魅力が伝えられる商品ページデザインに関する基礎知識。グループで商品ページデザイン制作実習	授業内容の復習	2時間
第12回 グループ制作のオリジナルサイトデザイン 1 制作実習 授業で登録したBASEサイトのトップページなどをグループで役割分担をしながらデザイン制作実習。ブランドの魅力が伝えられるサイトデザインに関する基礎知識	授業内容の復習	2時間
第13回 グループ制作のオリジナルサイトデザイン 2 制作実習	授業内容の復習	2時間

	授業で登録したBASEサイトのトップページなどをグループで役割分担をしながらデザイン制作実習		
第14回	グループ制作のオリジナルサイトデザイン プレゼンテーション これまで制作したオリジナルブランドサイトについてグループ単位でプレゼンテーション表現の客観的な分析を行い、反省点を踏まえてブラッシュアップを行う グループディスカッション	授業内容の復習	2時間

授業科目名	衣環境学実験				
担当教員名	坂下 理穂				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	実験				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

快適で健康的な衣環境を形成するためには、人間の身体条件と取り巻く環境条件の相互関係を捉え、人間の生理に基づいた衣服のあり方を理解し、適した衣服を選択する必要がある。この授業では、「衣環境学」や他のアパレル関連の講義で得た知識を基礎とし、衣料管理士資格取得に必要とされる人間—衣服—環境の関連性について、実験により高度な応用力を身につける。また、得られた実験結果とともに自身の意見や主張をレポートにまとめ、その成果を発表することによって、体験的に得た成果や知識を他者へ伝える能力を養う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解	「アパレル生理・衛生学」分野の専門的知識と実践力	人間の生理に基づいた衣服のあり方を理解し、快適で健康的な衣生活を実現するために、適した衣服を選択できる。
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	衣料管理士として従事する職務に必要な能力の修得	人体とアパレル設計の関係を実験的により詳しく理解し、製品の適否を判断する力と消費者に最適なアドバイスができる高度な応用力を修得する。
汎用的な力		
1. DP6. 行動・実践		快適で健康的な衣生活を実現するために、実験成果を踏まえて身体および環境条件に適した衣服を選択できる。
2. DP8. 意思疎通		人間—衣服—環境の関係性を正しく理解し、実験成果を踏まえて衣服の適否とその理由を他者へ伝えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・その他(以下に概要を記述)

受講者が自主的に実験を進めることができるように実験内容を計画し、その方法や必要な情報を含めて作成した実験テキストを使用する。

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

実験レポート	：	実験レポートを毎週提出し、丁寧にまとめられた結果をもとに考察ができているか等の観点から評価する。(4点×10回)	40 %
発表	：	前半・後半の実験終了後に報告会を実施する。各班で実験結果および考察について発表用スライドを作成。他班の発表内容について相互に討議し、審査も実施する。(15点満点×2回)	30 %
定期試験(レポート)	：	最終課題としてレポート提出を行い、実験を通して衣環境学分野に関する理解度を評価する。	30 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- ・日本衣料管理協会編「アパレル生理衛生論」（日本衣料管理協会、2016年）
- ・田村照子編「衣環境の科学」（建帛社、2012年）
- ・日本家政学会被服衛生部会編「アパレルと健康」（井上書院、2015年）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日昼休み
場所： 生活デザイン第一研究室
備考・注意事項： 授業外の質問には、授業の前後に応じる。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーション、実験機器取扱い・手順の説明 授業の進行や実験で用いる機器の取扱い方法および実験上の安全に関する説明を行う。	「衣環境学」で学んだ内容を理解しておく。	1時間
第2回 暑さ・寒さと温熱環境1（秋季） 気温、湿度、気流および輻射熱を計測し、暑さや寒さに影響する因子について計測する。	秋季の気温などの結果をまとめグラフを作成する。	1時間
第3回 体格・動作の測定 測定器を用いた人体計測を行う。	同じ班のメンバーの体格を測定し、データを増やす。	1時間
第4回 身体組成の計測 実測により、体格指数や体組成を求める。	体格指数などの計算を行い、自分の体格を知ること。	1時間
第5回 環境と皮膚温・体温 皮膚温・深部体温を測定し、それらと環境の関わりについて学ぶ。	環境によって皮膚温がどの程度異なるかを推察する。	1時間
第6回 温熱性および精神性発汗反応の測定 2種類の発汗反応を観察および測定し、どのような違いがあるのかを学ぶ。	2種の発汗反応を測定し、どの条件でどの部位が多く発汗するのかを調べる。	1時間
第7回 実験成果のまとめ（前半）—復習およびプレゼンテーション作成— 前半に実施した実験成果についてまとめ、発表用の資料を作成する。	前半の実験内容と実験結果について復習し、自分の考えを説明できるようにしておく。	1時間
第8回 実験結果の報告（前半） 前半に実施した実験成果について、班ごとに発表し、質疑応答を行う。	他班の発表内容を踏まえて、自分の実験結果を改めて分析、考察する。	1時間
第9回 衣服気候と着衣行動 衣服の着脱行動が衣服気候に及ぼす影響について考える。	衣服気候が着衣行動にどのような影響を与えるかを推察する。	1時間
第10回 運動時の体温調節反応 運動時の体温や心拍数の変化を測定し、安静時と運動時の生理反応の違いを学ぶ。	運動強度によって心拍数などにどの程度変化があるのかを班で考える。	1時間
第11回 着衣による拘束性 衣服圧の測定と、拘束感についての評価により、圧迫による人体への影響について考える。	日常生活で着用する衣服の中で、衣服圧の高いものはどのような衣服なのかを調べる。	1時間
第12回 皮膚性状の測定 皮膚の水分、脂質、pHなどを測定する。	部位によって水分量、脂質、pHが異なることを確かめる。	1時間
第13回 暑さ・寒さと温熱環境（冬季） 冬季における気温、湿度、気流および輻射熱を計測する。	後半の実験内容と実験結果について復習し、不足があれば補填する。さらに、自分の考えを説明できるようにしておく。	1時間
第14回 実験結果の報告 第9～13回に実施した実験成果について、班ごとに発表し、質疑応答を行う。	他班の発表内容を踏まえて、自分の実験結果を改めて分析、考察する。	1時間

授業科目名	材料学実験				
担当教員名	坂下 理穂				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	実験				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本実験は、繊維製品を扱う様々な現場で活躍できるように、繊維、糸、布に関する知識及び関連技術を身につけることを目的とする。実際の繊維、糸、布を用いた実験を通して、繊維の性質を総合的に理解した上ではじめて可能となる繊維の鑑別技術及び各種試験機器を用いた糸や布の性質を定量的に評価する技術を習得する。また、実際の測定データの取得とレポート作成を通して、繊維、糸、布の特徴と性質を関連させて考察する力も身につける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

繊維、糸、布の性能や品質を科学的、客観的に評価できる能力。
繊維製品の品質表示に必要とされる繊維の鑑別が行える能力。

目標：

実験や測定の結果の解析を基に、繊維、糸、布の性能や品質が、設計どおりに発現しているかを判断することができる。
繊維の性質を総合的に理解し、繊維鑑別法を実践することで、繊維の鑑別を行うことができる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP6. 行動・実践
3. DP10. 忠恕の心

繊維製品の企画・設計、製造、消費・管理時に生じる諸問題を発見し、解決できる力を身に付ける。

文献や講義で得た知識を統合し、実際の諸問題に対応することができる。

互いの気持ちを思いやり、また互いの安全に配慮して、実験を行うことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 実験、実技、実習
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

実験レポート	：	毎回5点満点として実施し、総計を40点満点に換算する。実験の考察がなされ、創意工夫が記載（5点）、実験を基に考察が記載されている（4点）、実験の内容のみが記載（3点）、記載内容不足（1点）。	40 %
実験発表	：	実験結果を班ごとに発表する。計30点満点で評価する。実験結果を理解し、さらに掘り下げて考察できている（15点）、実験内容を基に考察されている（10点）	30 %
定期試験	：	定期試験期間に、実験や測定に関する知識と技術の理解度について試験を実施する。筆記試験を中心とした総合的な内容で行い、30点満点で評価する。	30 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

松梨久仁子編著 衣服材料学実験（生活科学テキストシリーズ） 朝倉書店
榎本雅穂/古濱裕樹編著 繊維材料にフォーカスした生活材料学 新版 アイ・ケイ コーポレーション

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜日
場所： 生活デザイン第一研究室
備考・注意事項： オフィスアワー以外でも在室時にはいつでも対応します。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 前半の実験の説明、繊維の鑑別（顕微鏡による観察） 第7回目までに行う実験について説明する。 繊維の鑑別の一つである顕微鏡による形態観察を行う。	各繊維の形態についてまとめる。	2時間
第2回 繊維の鑑別（燃焼） 各種繊維を燃焼したときの状態を観察し、燃焼状態の違いから、繊維の種類を判別する。	繊維の種類と染色性の結果についてまとめ、考察する。	2時間
第3回 繊維の染色性および溶解性 酸、アルカリ、有機溶剤に繊維片を浸漬し、これらの試薬に対する各種繊維の溶解性を調べる。 また、多織交織布を用いて繊維鑑別用染料により染色する。	繊維の種類と染色性および溶解性の結果についてまとめ、考察する。	2時間
第4回 混用率試験 溶解法により混紡布の混用率を求める。	溶解法以外の混用率試験について調査し、それぞれの特徴をまとめる。	2時間
第5回 未知試料の鑑別試験 テキスタイル基礎実験及び第4回までに習得した鑑別手法を活用し、未知繊維試料の鑑別を行う。	未知の繊維に対する鑑別実験の方法と鑑別結果を報告するためのプレゼンテーション資料を作成する。	2時間
第6回 未知試料の混用率試験 テキスタイル基礎実験及び第4回までに習得した鑑別手法と混用率試験手法を活用し、未知繊維試料の混用率測定を行う。	未知の混用率試験結果を報告するためのプレゼンテーション資料を作成する。	2時間
第7回 未知試料の鑑別および混用率試験結果の発表、後半の実験の説明 未知試料の鑑別および混用率試験結果についてグループ発表を行う。また、第8回からの実験について説明する。	得られた鑑別結果、混用率測定結果について、妥当性や方法の改善点について考察する。	2時間
第8回 引張試験 引張試験機を用い、糸および布の引張試験を行う。測定で得られた荷重と変位から、引張強さ、伸び率などを計算する。	強伸度の測定結果をまとめ、糸、布の構造との関係を考察する。	2時間
第9回 引裂試験 エレメンドルフ引裂試験機により、布の引裂強さを測定する。	引裂強さの測定結果をまとめ、糸、布の構造との関係を考察する。	2時間
第10回 耐久性試験 ミュレン型破裂強度試験機による破裂強さの測定を行う。 また、ユニバーサル形摩耗試験機を用いて摩耗強さを測定する。	破裂強さと摩耗強さの測定結果をまとめ、糸、布の構造との関係を考察する。	2時間
第11回 吸水性 バイレック法、滴下法による各種布の吸水速度の測定及び浸漬法による吸水率の測定を行う。	吸水性と繊維の種類、糸、布の構造の関係について考察する。	2時間
第12回 ドレープ性 ドレープ試験機により、ドレープ係数を算出する。	ドレープ性と剛軟性、ドレープ性と繊維の種類、布の構造の関係について考察する。	2時間
第13回 耐熱性 各種布について温度を変えた処理を行い、処理前の寸法、外観、風合いの変化を観察する。 さらに、各繊維の融点測定を行う。	繊維の融点などの温度特性と耐熱性の実験結果から適正なアイロン温度について考察する。	2時間

第14回

保温性

冷却法を用いて保温性の測定を行い、データを収集する。

布の構造特性と保温性の関係について考察する。

2時間

授業科目名	被服整理学実験				
担当教員名	澤田 和也				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	実験				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

衣料管理士資格取得において必要な知識の一つである、繊維製品や染色物の洗浄時における取扱いについて科学的に理解すると共に、必要に応じて適切な方法で性能試験を行うことの出来るスキルを実験的に身に付ける。本授業では、1回生時のテキスタイル基礎実験で修得した被服整理に関する実験的素養を基礎にして、JIS規格に準じた精度の高い実験を行い、そのデータ評価をコンピュータ解析により詳細に行い、将来衣料品管理を行う現場で通用する知識と技術を身に付ける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

被服整理に関する総合的な知識と技術を身につける。

目標：

衣料管理士として衣服整理のあらゆる事案に対して対処するための技術を身に付ける

汎用的な力

1. DP4. 課題発見

実験指針と異なる事態となった際に、如何にして現状を理解して対応策を講じるかを考える力を身に付ける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

毎回出席することを前提とし、規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

実験レポート	60 %	：	5点×14回を60点満点に換算 実験結果に対する科学的考察の有無や評価方法の把握度の判定
実験操作の取り組み状況	20 %	：	5点×14回を20点満点に換算 事前説明における注意点や重要ポイントを把握した上での作業か否かの判定
定期試験	20 %	：	整理実験評価の専門技術に関する実技試験を実施し、20点満点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

実験テーマごとに適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

衣料管理士を取得するために必須の実験です。修得済みの被服整理学、およびテキスタイル基礎実験の内容を十分に理解しておいて下さい。本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日（1限）

場所： 生活デザイン第1研究室

備考・注意事項： オフィスアワー以外でも在室時にはいつでも対応します。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 実験の全般説明、直接染料による堅牢度試験用染色布の作成 ・被服整理学実験の内容について説明する。 ・直接染料による染色の基礎事項をマスターする。	衣料管理士取得を目指し、その整理分野の内容を理解する	4時間
第2回 建染染料による堅牢度試験用染色布の作成 建染染料の特徴、および染色のメカニズムや堅牢性についての基礎事項をマスターする。	建染染料の特性を理解し、日常生活の中にある建染染料による染色布の特徴の関連を調べる	4時間
第3回 洗浄試験の説明と汚染布の表面反射率測定 洗浄試験において使用する汚染布の特徴を理解し、洗浄による反射率変化から得られる洗浄効率の意味を解説する。	日常における衣類の洗浄と汚れ落ちの評価方法について考える	4時間
第4回 データ整理と実験説明 ・パソコンを用いた実験データの整理方法、各種グラフの描画や観察方法について解説する。 ・次週から3回にわたる実験内容を説明する	パソコンを用いてデータをもとに、種々の評価方法を理解する	4時間
第5回 綿布への糊付実験及び浴比の洗浄効果評価実験 ・種々の糊剤を用いた綿布への糊剤塗布の実験を行う。 ・種々の浴比における洗浄効果への影響を確かめる。	糊剤の意味を理解する。洗濯物と水の量の関係について理解する	4時間
第6回 界面活性剤濃度変化による洗浄効率評価の実験 種々の界面活性剤濃度における洗浄試験を行い、洗浄効率との関係を理解する。	適切な洗剤濃度とは何か、そして理論的にそれは何を意味するのかを理解する	4時間
第7回 反応染料による堅牢度試験用染色布の作成 反応染料による染色のメカニズムや基礎事項をマスターする。	反応染料と直接染料の違いを理解できるようになる	4時間
第8回 データ整理及び紫外線堅牢度試験布の作成 ・過去3回の実験で得られたデータの交換および整理 ・長期にわたって行う、紫外線暴露試験布の作成	エクセルによるデータ整理がスムーズに行えるようになる	4時間
第9回 洗濯堅牢度用複合試験布の作成 洗濯堅牢度評価法の説明を行い、試験片の作成を行う。	日常生活における洗濯による色落ちの科学的評価法を理解する。	4時間
第10回 洗濯堅牢度試験および摩擦試験 以前に作成した堅牢度試験用布を用いて洗濯堅牢度試験および摩擦試験をそれぞれJIS規格に準じて行い、その結果を評価する。	日常生活における洗濯による色落ちの科学的評価法を理解する。	4時間
第11回 表面張力測定 界面活性剤濃度を変化させ、表面張力の変化と界面活性剤濃度の関係を調べる。	表面張力の変化とcmcの関係について理解できるようになる	4時間
第12回 糊付け効果の測定および分散染料染色 ・以前に作成した糊付け布の剛軟度と糊剤の相違の関係を評価する。 ・分散染料の染色を種々の条件下において行う。	カンチレバー式剛軟度測定の手段を理解する。グレースケール取扱いおよび評価方法をマスターする。	4時間
第13回 紫外線堅牢度の評価 数週にわたって実施してきた紫外線堅牢度試験の結果を評価する。	染料の相違による紫外線堅牢性の相違を理解する	4時間
第14回 実験評価と衣料管理士業務 衣料管理協会の基幹事業実施の一環を受け、被服整理学実験で実施した実験内容や評価方法が、衣料管理士として現場でどのように現場で活かされるかについて、業界人を招いたセミナー方式での討論会を行う。	今まで実施した実験内容の実際の現場における応用作業を理解する	4時間

授業科目名	ヘアメイク演習				
担当教員名	三宅 詩織				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	美容師、メイクスクール講師を経てヘアメイクとして活動。海外挙式専門のブライダルヘアメイクとしてニューカレドニアへの駐在経験あり。現在はフリーランスとして和装婚礼を主に年間100件以上の前撮りや挙式を担当。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

髪に関する基礎知識をつけること、セルフヘアアレンジができる技術を身につけること。
相モデル演習により他人のヘアもスタイリングできるようにする。
ブライダルやアパレル業界で働く為には美を高める技術は必須でありその為に自身のヘアアレンジ力を身につける。
お客様との信頼関係を築く為、ヘア知識を含めたトータルプロデュースができるようになる。
授業で学んだヘアアレンジを、別日の朝トライする時間が取れる貴重な期間（学生時代）に技術を身につけることで今後の女性人生をさらに充実させ華やかに送る。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

自分のイメージしたヘアアレンジができる

目標：

得意スタイルを3つ作る

汎用的な力

1. DP6. 行動・実践

一度は展示モデルになり積極的に参加する

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業の実習には必ず参加、時間が許す限り手を動かす姿勢を評価します。
原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

受講態度	：	授業に取り組み参加する意欲
20 %		
準備力	：	毎回必要になる道具を事前に揃えて来ているか
10 %		
技術力	：	定期的に学んだ技術が習得できているか確認テストを行います。
20 %		
定期試験（筆記）	：	各授業時に学んだ講義の筆記テストを行います。
20 %		
作品提出（技術）	：	フリーテーマによる製作力の評価
20 %		
小レポート	：	毎授業で配布されるプリントへ内容の妥当性と構成について記入、評価します。
10 %		

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

日本の髪型／京都美容文化クラブなど 随時資料を配布する

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間程度の授業外学修が求められる。

授業で学んだヘアスタイルを別日で実践することを授業外学修とする為、スタイル写真を残し提出することを求める場合もある。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後
 場所： 授業時の教室
 備考・注意事項： 授業前後の質問歓迎します

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 授業概要説明・展示のみで生徒による実習はなし ・授業内容の説明・講師自己紹介・現時点でのヘア知識を図る簡単な小テスト・次回からの持ち物についての説明をすると同時にヘア道具の良し悪しなどの説明・ヘアセットデモンストレーション	必要な道具を次回までに揃える	1時間
第2回 ヘア道具の種類と使用法・頭部の名称を覚える / 実習：ゴムだけでできるヘアアレンジ 筆記：基本のヘアセットに必要な道具（選び方）とその正しい使用法を学ぶ・頭の部位の名称を学ぶ 実習：自分の髪でセルフアレンジ（例：ポニーテール・ローポニーテール・シニョン：たまねぎ など） 海やプール、保育園や幼稚園などビンの使用がNGの場所でもかわいく工夫できるようゴムによるアレンジ 実習後に教室内を回り他の生徒のアレンジを見て学ぶ その日の確認シート配布（小レポート記入）	次週までに習ったヘアスタイルで一度は登校する	1時間
第3回 ヘアビンの種類と打ち方 実習：ピンを使ったアレンジ 目的に合わせたビンの種類を学ぶ 頭皮に負担のかからないビンの打ち方の練習 必ず準備物としてピンを揃えておく 実習：セルフアレンジ・ピンを見せないように毛束を留める（例：シニョン） 実習後に教室内を回り他の生徒のアレンジを見て学ぶ その日の確認シート配布（小レポート記入）	次週までに習ったヘアスタイルで一度は登校する	1時間
第4回 毛髪知識についての説明 実習：アイロンでスタイルをつくる どのようにして毛髪の形状に変化がおこるのかを講義カールアイロン・ストレートアイロンの正しい使い方説明補足（前髪・サイドの髪の処理やアレンジについて） 実習：セルフアレンジ ダウンスタイル・ハーフアップ 実習後に教室内を回り他の生徒のアレンジを見て学ぶ その日の確認シート配布（小レポート記入）	次週までに習ったヘアスタイルで一度は登校する	1時間
第5回 ヘアスタイルの歴史 展示：日本髪（例：割れしのぶ・島田結 など） 展示のみで生徒による実習はなし 日本のヘアスタイルの歴史についての説明 世界へ出ていく前に知っておきたい日本の伝統と技術のつまった日本髪を紹介 展示：実際に日本髪を作る工程を展示します。 作り方はもちろん日本髪に必要な道具も近くで見ながら学んでください。 その日の確認シート配布（小レポート記入）	今回の実技テストにむけて復習や準備	1時間
第6回 実習：フリーテーマ制作 実習：フリーテーマで自分のヘアスタイルをアレンジ 実習後に教室内を回り他の生徒のアレンジを見て学ぶ	特になし	0時間
第7回 人の髪に触れる 実習：ヘッドマッサージとシンプルアレンジ 相モデル	次週までに習ったヘアスタイルで一度は登校する	1時間

	<p>人の髪に触れる時の注意事項</p> <p>実習：相モデルでマッサージ、コーミング、クルリンパを使ったアレンジ</p> <p>前半、後半でモデル交替</p> <p>実習後に教室内を回り他の生徒のアレンジを見て学ぶ</p> <p>その日の確認シート配布（小レポート記入）</p>		
第8回	<p>実習：ねじり留め 相モデル</p> <p>人の髪でねじり留め（見えないピンの打ち方）を練習 アレンジ</p> <p>前半、後半でモデル交替</p> <p>実習後に教室内を回り他の生徒のアレンジを見て学ぶ</p> <p>その日の確認シート配布（小レポート記入）</p>	次週までに習ったヘアスタイルで一度は登校する	1時間
第9回	<p>実習：アイロンを使ったスタイル 相モデル</p> <p>カールアイロン、ストレートアイロンを使ってスタイルを提案する</p> <p>前半、後半でモデル交替</p> <p>実習後に教室内を回り他の生徒のアレンジを見て学ぶ</p> <p>その日の確認シート配布（小レポート記入）</p>	次週までに習ったヘアスタイルで一度は登校する	1時間
第10回	<p>実習：編みスタイル 相モデル</p> <p>実習：ねじる、三つ編み、方編み、フィッシュボーンなどを使い編んでアレンジする</p> <p>前半、後半でモデル交替</p> <p>実習後に教室内を回り他の生徒のアレンジを見て学ぶ</p> <p>その日の確認シート配布（小レポート記入）</p>	今回の実技テストにむけて復讐や準備	1時間
第11回	<p>実習：ねじり留め確認テスト 相モデル</p> <p>与えられたテーマに応じてねじり留めができるか技術確認テスト</p> <p>前半、後半でモデル交替</p> <p>実習後に教室内を回り他の生徒のアレンジを見て学ぶ</p> <p>その日の確認シート配布（小レポート記入）</p>	次週までに習ったヘアスタイルで一度は登校する	1時間
第12回	<p>パーティヘアアレンジ 夜会巻きについて 実習：夜会巻き 相モデル</p> <p>あらゆる方面で利用することができるオールマイティスタイル夜会巻きについての説明</p> <p>夜会巻きからのアレンジスタイル</p> <p>実習後に教室内を回り他の生徒のアレンジを見て学ぶ</p> <p>その日の確認シート配布（小レポート記入）</p>	製作イメージをまとめておく	1時間
第13回	<p>フリーテーマ制作（相モデル）1</p> <p>自分がやってみたい髪型の画像を準備して解説し実際に仕上げる</p> <p>前半、後半でモデル交替</p> <p>実習後に教室内を回り他の生徒のアレンジを見て学ぶ</p> <p>その日の確認シート配布（小レポート記入）</p>	製作イメージをまとめておく	1時間
第14回	<p>フリーテーマ制作（相モデル）2</p> <p>テーマに合わせたヘアスタイルを一点制作する</p> <p>前半、後半でモデル交替</p> <p>実習後に教室内を回り他の生徒のアレンジを見て学ぶ</p> <p>その日の確認シート配布（小レポート記入）</p>	今までの配布プリントを確認	1時間
第15回	<p>筆記テスト</p> <p>基礎知識、歴史、ヘアアレンジ ポイントなどの確認筆記テスト</p> <p>問題は全て授業中に配布されたプリントから出題</p>	特になし	0時間

授業科目名	マーケティング論				
担当教員名	橋本 洋平				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	自社アパレルブランドのショップ経営、商業施設内でセレクトショップ運営。（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

この講義では、マーケティングの基本知識とその実践力をつけるために、理論や具体的な手法を学びます。具体的にはグループディスカッションにより市場調査（定性調査）及び消費者調査（定量調査）を実施し、消費者行動を考察します。調査の結果をもとに、「マーケティング戦略」を設定し、その戦略に適したプロモーション・ツールを作成します。さらに、プレゼンテーションを行い、ビジネスにおけるPDCA(Plan、Do、Check、Action)を身につけます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

マーケティングの基本的理論を理解し、消費者行動を分析する。

目標：

市場のニーズを予測できる経営学的センスを身につける。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見

消費者行動分析による結果から、未来を予測したり課題を発見したりできる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ 課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

課題レポート	40 %	：	課題レポートの内容によって、基本知識の理解度・分析能力を、科目独自のルーブリックに基づいて評価します。
グループワークとプレゼンテーション	30 %	：	調査結果の発表やプロモーション・ツール制作の発表について、全学ルーブリックに基づいて評価します。
定期試験(レポート)	30 %	：	期末レポートの内容について、全学ルーブリックに基づいて評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜講義で示します

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： 質問は、授業の前後に応じる。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 マーケティングとは何か なぜマーケティングが必要なのか、マーケティング活動の事例からビジネスにおけるマーケティングの全体像を知る。	マーケティングとは何か、事例をあげてレポートを書く。	4時間
第2回 マーケティング・マネージメントの考え方 マーケティング・マネージメントの考え方・プロセスを知り、事例をあげマーケティング・マネージメントを組み立ててみる。	マーケティング・マネージメントを組み立てて、レポートを書く。	4時間
第3回 ブランドマーケティングについて ブランドマーケティングについて学ぶ。事例をあげ、その手法について学ぶ。	ブランドマーケティングの事例をあげ、レポートを書く。	4時間
第4回 製品戦略について マーケティングの製品戦略について学ぶ。	企業の製品ミックスを検討し、企業の製品戦略の特徴について考察して、レポートを書く。	4時間
第5回 価格戦略・チャネル戦略について マーケティングの価格戦略とチャネル戦略について学ぶ。	価格戦略とチャネル戦略の事例をあげ、レポートを書く。	4時間
第6回 プロモーション戦略について マーケティングのプロモーション戦略について学ぶ。	プロモーション戦略の事例をあげ、レポートを書く。	4時間
第7回 グローバル・マーケティングについて、これからのマーケティングについて グローバル・マーケティングについて学ぶ。また、新しく注目されているマーケティングについて学ぶ。	グローバル・マーケティングについて事例をあげ、レポートを書く。	4時間
第8回 デジタル・マーケティング、キャラクター・マーケティングについて デジタル・マーケティングやキャラクター・マーケティングについて学ぶ。	デジタル・マーケティングとキャラクター・マーケティングについて事例をあげ、レポートを書く。	4時間
第9回 マーケティングリサーチ:リサーチの意義、仮説構築 グループにより、仮説構築を行いマーケティング戦略を考える。	グループワークでマーケティング戦略を考えて、レポートを書く。	4時間
第10回 マーケティングリサーチ:アンケート調査 マーケティング戦略をもとに調査企画書とアンケート項目を検討する。調査の基本を学び、アンケートを作成する。	作成したアンケートを実施する。	4時間
第11回 マーケティングリサーチ:インタビュー調査 アンケート結果を考察し、インタビュー調査の企画書を作成する。	作成したインタビュー調査を実施する。	4時間
第12回 マーケティングリサーチ:アンケート調査、インタビュー調査結果の考察 アンケート調査・インタビュー調査結果の考察を行い、マーケティング戦略の修正を行う。マーケティング戦略に適したプロモーション・ツールを考える。	結果をもとにグラフを作成し、考察する。	4時間
第13回 マーケティングリサーチ:プロモーション・ツールの作成 マーケティング戦略に適したプロモーション・ツールを作成する。	発表資料を完成させる。発表の練習をしておく。	4時間
第14回 マーケティングリサーチ:プレゼンテーション グループごとに、マーケティングリサーチの内容・結果とプロモーション・ツールについて発表する。	課題レポートを作成する。	4時間

授業科目名	フェースメイク演習				
担当教員名	福西 由美子				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	メイクアップアーティストとしてメイクサロン主宰、一般企業向け研修・講座、サロンやカルチャーセンター、イベントにて個人向けメイクレッスン講座、舞台メイクを担当。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目では、ファッション表現の専門的な学びの一環として、ファッションスタイルをトータルで表現する為のメイクアップの基礎技術を習得することを目的とする。まず、メイクのベースとなる皮膚の構造を理解し、スキンケアの重要性を学び、化粧品目的、役割等の技術を裏付ける基礎的理論を学ぶ。その後、ファッションイメージを表現するメイクアップ方法を、カラー・デザイン・テクスチャーの面から表現できるようになることを本科目の目標とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

メイクアップの専門的知識と技術を学ぶ。

目標：

皮膚の構造を理解した上でスキンケア、メイクアップの理論と技術を理解し実践することができる。

2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

ファッションのテイスト、シーンを理解しファッションとメイクのトータルコーディネート完成させる為の表現力を身につける。

ファッションテイスト、目的に応じたメイクアップバリエーションの表現ができる。

汎用的な力

1. DP6. 行動・実践

学んだことを、自らの日々のコーディネートや、学内のファッションショー等で実践することができる。

2. DP5. 計画・立案力

テーマ設定から方法手段、実施までの計画をプランニングできる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内課題	：	各回授業内の実習、ワークシートで評価する。
	30 %	
受講態度	：	各回授業への積極的参加（実践と質問等）や授業態度（受講マナーや私語、スマートフォン等の授業妨げになる場合は減点）を基に総合的に評価する。
	20 %	
授業内小レポート	：	授業内容をふまえた記述（10点）と図解での確に示せているか（10点）で評価する。
	20 %	
定期試験（発表・作品提出）	：	トータルコーディネート企画の作品提出と発表で評価する。
	30 %	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

美容皮膚科学辞典（中央書院）
顔分析鎌田塾（講談社）

履修上の注意・備考・メッセージ

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
本科目は、理論に基づく演習が重要であるため、聴講のみの受講は認めません。（当日の肌トラブルの場合は例外）

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
場所： 授業の教室
備考・注意事項： メールアドレス：fukunishi-y@g.osaka-seikei.ac.jp

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 授業概要説明とメイクアップにおける基礎知識 ・授業内容の説明、メイクアップに必要な化粧品、道具の種類、選び方、取り扱いについて等を理解する。	配布資料を通読し、自身の使用備品を確認する。	1時間
第2回 皮膚学 化粧の技術を習得するうえで、肌、皮膚の構造、表皮の役割、ターンオーバーの仕組みを理解し、肌トラブルのメカニズム、紫外線に対する知識を学ぶ。	資料を通読し、レポートにまとめる。	1時間
第3回 スキンケアの基礎知識 ・スキンケアの役割、スキンケア化粧品の選び方、薬事法表示数値の読み方を理解し、肌の状況に合わせた適切なスキンケアを身につける。	資料を通読し、レポートにまとめる。	1時間
第4回 メイクアップの基本テクニック（1）ベースメイク ファンデーションの種類・色選びとつけ方、肌悩みに応じた化粧品の使い方の基本テクニックを身につける。	学んだ技術を、日々実践する。	1時間
第5回 メイクアップの基本テクニック（2）アイブロウ・メイク 基本の眉バランスを理解し、描き方・道具の使い方・テクニックを学ぶ。	ワークシートを使用して描き方をマスターする。	1時間
第6回 メイクアップの基本テクニック（3）アイメイク・チーク・リップメイク 顔の骨格理解、アイメイクに必要な名称、アイシャドウ・アイライン・マスカラの塗り方、チーク・ハイライト&ローライトの入れ方、リップの形・基本と応用の塗り方、道具の使い方を学ぶ。	雑誌等でメイクの配色をリサーチする。	1時間
第7回 メイクアップの基本テクニック（4）トータルメイク（実技テスト） 第6回までに学んだ基本テクニックについて規定時間内でスキンケアからフルメイクを行い、仕上がりを確認する。	苦手なパーツメイクの復習をする。	1時間
第8回 メイクアップのイメージ表現（1）色の組み合わせと効果 色彩理論をふまえた配色パターンの理解、塗布する分量と全体のバランス、デザイン表現をドローイング手法で学ぶ。	アイメイクを中心とした画像資料を収集する。	1時間
第9回 メイクアップのイメージ表現（2）イメージのカラー表現 ファッションのイメージやテイストを把握し、異なるイメージをカラー・質感・デザインでポイントメイクを中心にメイクアップで表現する。	2タイプファッション・イメージ画像資料を収集する。	1時間
第10回 メイクアップの応用テクニック（1）光と影 立体表現 モノクロ・シネマ時代の女優、フォトジェニックなモデルたちのスチル写真から立体の捉え方から、コスメの種類と色選定・ラインの引き方・ローライト&ハイライトの入れ方等、立体表現のテクニックを学ぶ。	モノクロの顔を中心に画像資料を収集する。	1時間
第11回 メイクアップの応用テクニック（2）ステージ・メイク デザイナーのコンセプトを表現するファッション・ショウにフォーカスし、ライティングと発色の関係を解説、フェイス&ボディのメイクアップ表現を学ぶ。	コレクション情報の画像資料を収集する。	1時間
第12回 メイクアップの応用テクニック（3）ポートレート撮影 スチール撮影における光源の種類とメイクカラーの発色、ポージングやファッションの選定、撮影に関する基礎知識の解説、ポートレート撮影に映えるメイクテクニックを学ぶ。	屋外・室内、時間帯別の撮影画像を作成する。	1時間
第13回 トータルコーディネート企画（1）プランニング 課題のテーマ設定・コンセプトをもとにメイクアップのイメージ、ファッションの選択、小物、撮影場所、背景など含めたスタイルリング・プランを企画する。	プラン内容に応じた資料の収集、コスメの検討など進んでいく。	1時間

第14回	トータルコーディネート企画(2)メイク・リハーサル、 プラン発表の準備 企画プランに沿って、メイクアップやヘアメイクのリハーサル、プランをまとめて発表準備を進める。(定期試験課題)	撮影画像のレイアウト、発表に向けて準備を進める。	1時間
------	--	--------------------------	-----

授業科目名	繊維加工学				
担当教員名	澤田 和也				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

繊維製品には付加価値を高めるために各種の加工が施されている。その加工技術は、我が国のみならず世界各国において目指しい早さで発展しており、現在も進行している。本授業では、そのような繊維加工に関する現在までのさまざまな既存技術について解説を行うと共に、その問題点を考える。さらに、環境問題を含めた将来への課題についても考察できるようになることを目標とする。また、現状の各加工法による効果や、加工剤の分析法についても理解できるようになることを目標とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

繊維加工を施す意義とその効果についての専門知識を身に付けることができる。

目標：

繊維材料と加工の可否の関係について、材料の知識を基に推測することのできる専門知識を身に付けることができる

汎用的な力

- DP4. 課題発見

現在の繊維加工技術の課題や問題点について考え、どのような解決法が考えられるか、について考察出来る力を身に付けることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

ミニレポート	：	毎回5点満点として14回実施し、総計を30点満点に換算する。自己の考えを含めて詳細に記載されている（5点） 講義内容のみから記載されている（3点） 論点が的確ではない。（1点）
30 %		
特定テーマに対する課題考察力	：	2回実施する特定テーマに対する解決策を探る課題に対して20点×2回の40点満点で評価する。社会的背景も含めて考察出来ている（20点） 授業内容のみで考察出来ている（20点）
40 %		
定期試験	：	学期末に繊維加工に関連する知識の理解度についての試験を実施する。筆記だけでなく、プレゼンテーションを含めた総合的な内容の試験とし、30点満点として成績評価に加える。
30 %		

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

榎本雅穂ら 繊維材料にフォーカスした生活材料学 アイ・ケイコーポレーション
その他、各テーマに応じて適宜プリント配布等により紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

繊維加工は現在の衣料品には大なり小なり施されている手段であり、その事実を改めて認識することで今後の快適な衣生活を送れるようになってもらいたい。本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日（1限）
 場所： 生活デザイン第1研究室
 備考・注意事項： オフィスアワー以外でも在室時にはいつでも対応します。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 繊維加工の歴史と概論 繊維加工の目的は何か？ 現在と過去の繊維加工の意味合いや、現状の繊維加工に対する概要を初回導入編として解説する。	繊維加工の目的と概念を理解出来るようになる。	4時間
第2回 シルケット加工について マーセライズの意味合いを理解すると共に、そのような加工に至る背景や現代における必要性等について解説する。	絹と綿の構造上の違いを理解出来るようになる。	4時間
第3回 樹脂加工について さまざまな種類の樹脂加工について紹介し、繊維製品のみならずプラスチックに活用されている技術について紹介する。	樹脂の種類や加工前後に人が感じる感性的な相違について理解する。	4時間
第4回 形態安定加工について 形態安定加工が必要な繊維と加工後に人体に与える影響を含めた解説を行い、前週の樹脂加工を応用した形態安定加工との相違について説明する。	日常生活において使用している形態安定加工製品の特徴を見つける	4時間
第5回 難燃加工について 防災・難燃・不燃について法的規制の現状も踏まえて、その手段を含めた内容について解説する。	身の回りに存在する、防災・難燃・不燃材料の違いを理解出来るようになる。	4時間
第6回 防縮加工について 従来羊毛を対象中心として施されてきた防縮加工の現状について、そのメカニズムと実際の相違について解説しながら、環境・安全を考えた加工法について解説する。	洗濯時における防縮剤の役割と製品前の加工の役割の差が理解出来るようになる。	4時間
第7回 ブリーチ加工について 古くから存在するブリーチ加工について、繊維ごとの適性や取扱いについて解説する。	市販のブリーチ加工製品がどのような手段により加工されたかについて、理解出来るようになる。	4時間
第8回 防虫加工について 薬剤による防虫と繊維製品そのものに対する防虫機能付与の違いや持続性について解説し、健康との関連性について述べる。	家庭における防虫剤の種類と繊維への影響を理解出来るようになる。	4時間
第9回 減量加工について 繊維の種類によって手段の異なる減量加工の相違と、それを施す意味合いや必要性について解説する。	減量加工することにより得られる長所と短所が理解出来るようになる。	4時間
第10回 帯電防止加工について 「静電気発生の防止のため」、と捉えられがちなこの加工法について、実際の用途や加工手段の多様性について解説する。	日常生活で可能な簡便な帯電防止の知恵について理解出来るようになる。	4時間
第11回 表面親水化加工について 本来親水性を持たない種類の繊維表面にこの加工を施すことによるメリットやデメリットについて解説し、この加工法の意味合いを考える。	撥水・防水・吸水・吸湿のキーワードについて理解出来るようになる。	4時間
第12回 抗菌・防カビ加工について さまざまな繊維製品に活用されるようになったこの加工法について、その手段だけでなく、混同しがちな目的の相違について解説する。	SEKマークについて理解出来るようになる。	4時間
第13回 その他の加工、繊維加工と安全性について 前回までのメインテーマでは解説出来ていない他の加工法について網羅的に解説する。	今回の授業にて得られた知識により、今まで気付いていなかった加工が身の回りにたくさん存在していることを理解出来るようになる。	4時間
第14回 加工剤の分析法について 試験機関等において実際に行われている分析方法について、衣料管理士として理解しておくべき事項を総合的に解説する。	衣料管理士資格を活かして将来検査機関等で実際に自身が分析に携わるということを前提に、どのような検査方法があるかを理解出来るようになる。	4時間

授業科目名	ファッション文化論				
担当教員名	百々 徹				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	神戸ファッション美術館学芸員として、企画・展示・保存・教育普及に従事 京都造形芸術大学空間演出デザイン学科ファッションデザインコース教員として勤務				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

サステナビリティ、インクルージョン、ダイバーシティ、フェアトレード、ジェンダーレスなど、ファッションを取り巻く環境の変化は著しく、また抱える問題も山積で複雑です。19世紀後半につくりあげられたファッションという仕組みは、21世紀になって地球規模の問題系へと変化してきました。そしていま、私たちはその大きな過渡期にいます。この授業では、ファッションの現在や近い将来を展望するような映像を数多く見ながら、私たちがいまどのような時代に生きているのか、そしてこれからどのような時代に生きていくことになるのかを、学んでいきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル
2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

ファッションだけでなく幅広い社会の仕組みやデザインに関する知識を得る
ファッションのデザインと衣服の役割に関する専門的知識

目標：

様々な知識をもとに、ファッションとそれを成り立たせている社会の仕組みについて理解できる
ファッション業界で働くために必要な基礎的知識を学び、将来的に自ら考え、活用していけるようになる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見

様々な資料や知識をもとにして、現代のファッション業界が抱える課題や問題を発見し、それに対する自らの見解や方向性を持てるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り（振り返りシート、チャトルシートなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

毎回の小課題	：	毎回、授業内で授業内容に即した問いかけを行います。それに対して自分の考えがしっかりと述べられているかを評価します。
	40 %	
期末試験	：	授業終了後の定期試験期間内に期末試験をおこない、時間内に論述問題に記述してもらいます。それを採点し、評価をおこないます。
	60 %	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- 『ファッションの仕事で世界を変える』白木夏子 ちくまプリマー文庫
- 『モード後の世界』栗野宏文 扶桑社
- 『ファッションの哲学』井上雅人 ミネルヴァ書房

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜お昼休み
場所： 生活デザイン第2研究室

授業計画

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 ポストコロナ時代のファッションのゆくえ 2019年に国連貿易開発会議はファッション産業を石油関連産業に次ぐ世界第2位の環境汚染産業だと指摘した。SDGsへの取り組みは、もはや不可避である。また、昨今では、サステナビリティだけではなく、インクルージョン、ダイバーシティ、ジェンダーレスなど様々な問題群がファッションの世界に渦巻いている。さらにはITやバイオなどの新たなテクノロジーも、ファッションと関わってきている。まずは導入として、ファッション問題の現在にアプローチする。	独自の研究ノートをつくり、授業で聴いたことを軸にして、自らの学びをまとめる	4時間
第2回 21世紀ファッションの現在 ファッション情報の最前線をこれまでコンスタントに発信してきたBSテレ東の番組『ファッション通信』。その番組の中から、コロナ禍によるファッション業界の変化に関する回を視聴しながら、その問題点と可能性について学んでいく。	コロナ禍におけるファッション業界の現状を調査し、その内容を研究ノートにまとめる	4時間
第3回 ファッションにおけるSNSの可能性 東欧やロシア出身のファッション・インフルエンサーの事例をSNSが彼女らの人生にどのようなポジティブな影響を与えたかを紹介する。そのうえで、SNSの正しい活用方法とその可能性について学んでいきます。	SNSの昨今の実態を調査し、その内容を研究ノートにまとめる	4時間
第4回 理想のモデルの多様性について 子供のころに尋常性白斑に罹り皮膚にダメージを追ってしまったウィニー・ハローは、不屈のがんばりでトップクラスのファッションモデルとなる。彼女のように、これまでの美の基準では測れない多様な美の特質を持ったファッションモデルが台頭してきている昨今の状況を、さまざまな紹介映像で学んでいく。	ファッションモデルに関連するファッション業界の現状を調査し、その内容を研究ノートにまとめる	4時間
第5回 サステナビリティという課題 サステナビリティは日本語で「持続可能性」のことを指す。2019年の国連機関の指摘を受けて、同年「パリ協定」も結ばれ、ファッション業界はもはやサステナビリティを抜きにして、ビジネスが難しくなっている。では、そのサステナビリティの取り組みとはどのようなものだろうか。NHKの番組を見ながら、ファッションのサステナビリティの最先端事例を紹介する。	ファッション業界におけるサステナビリティの現状を調査し、その内容を研究ノートにまとめる	4時間
第6回 ファッションは若者だけの特権か？ ニューヨークのはつらつとしたお洒落マダムたちを紹介するサイト「アドバンスト・スタイル」。そこに紹介されているマダムたちは、年齢などみじんも気にせず、いくつになってもお洒落を生業現役で楽しんでいる。そんな彼女らの日々を追いかけた映画を見ながら、年齢と装いについて、今一度考えてみる。	ファッションと年齢に関する日本と海外の現状を調査し、その内容を研究ノートにまとめる	4時間
第7回 オートクチュールの世界 20世紀を代表する有名メゾン、シャネル。数々の作品を生み出し世の女性たちを虜にしてきたシャネルの工房を追った『サイン・シャネル』というドキュメンタリーを見る。まずは、長年シャネルの美しいドレスを作り出してきた故カール・ラガーフェルドが、デザインを発送し、工房のお針子たちがトワルを作っていく過程を紹介する	オートクチュールとは何かを調査し、その内容を研究ノートにまとめる	4時間
第8回 皇帝カール・ラガーフェルド 前週に引き続き『サイン・シャネル』後半を見る。ドレスをつくるために日夜努力を続けるお針子たち、アイデアが次々とあふれ出るラガーフェルド、そして迫りくるショーの本番。その差し迫ってくる様子と、そこで奮闘するお針子たちの姿、さらに華やかなファッションショーの裏側でいかなる努力が数多く積み重ねられているかを、紹介していく。	シャネルの工房に関して調査し、その内容を研究ノートにまとめる	4時間
第9回 平和のためのファッション 長年にわたって内戦が続いたせいで、いまだに多くの貧困層が暮らすコンゴ共和国。そんなコンゴで、サブールと呼ばれる男たちがいる。彼らは安い賃金から何年もお金を貯め、お洒落なブランド服を買い、週末にそれで装って、村中をそぞろ歩く。村人たちはそんな彼らをかっこいいと眺め、子供たちも彼らの存在にあこがれる。彼らは銃を持つ代わりにステッキを持ち、軍靴の代わりに磨き上げた革靴を履く。そんな平和への願いを込めたサブールの装いから、ファッションの一つの可能性を見ていく。	サブールの現状を調査し、その内容を研究ノートにまとめる	4時間

第10回	あなたの人生に必要なもの	最近のファッションの消費の動向を調査し、その内容を研究ノートにまとめる	4時間
	映画『365日のシンプルライフ』を見ながら、物のあふれかえったこの時代にあつて、本当に私たちに必要なものについて考えてみる。ファッションというシステムは、まだ着られるものを時代遅れだからと着させなくして、買い替えさせる仕組みである。あれもこれもと買わされる割には、本当に着たいものが手元になかったりもする。そんな現代社会における、衣服の供給と需要、そして人の幸せについて考えてみる。		
第11回	ファッションの祭典の効能	メットガラの实態を調査し、その内容を研究ノートにまとめる	4時間
	毎年、メトロポリタン美術館を会場に華やかに開催されるファッションの祭典「メットガラ」。そのメットガラのドキュメンタリーを見ながら、なぜそんなパーティーが必要なのかを、その背景にある文化施設の維持管理コストの問題や、パーティーを開催することの効能について紹介する。またファッションの展覧会の開催に至るまでの過程も、元ファッション美術館の学芸員による実体験に基づく解説をしていく。		
第12回	ファッションと天才	自らがこの人は天才だと思うデザイナーを挙げて、その調査内容を研究ノートにまとめること	4時間
	ファッション界でひととき異彩を放ち40歳で惜しくも自ら命を絶った鬼才アレキサンダー・マックイーン。彼の生前のクリエイションの数々とその衝撃ぶりを伝えるドキュメンタリーを見ながら、ファッションの先端を切り開くモード・クリエイターという存在について学んでいく。		
第13回	これからのファッション世界、その展望と可能性	リサイクルやアップサイクルなどの資源の有効活用について、調査しその内容をまとめる	4時間
	ファッション通信の特集「ミライヲ ツクル チカラ」を見ながら、最近の若手デザイナーたちの新たな取り組みを紹介し、そこに垣間見える未来のファッションを切り開いていく力について考えていく。また最近のバイオテクノロジーやインフォメーションテクノロジーの現状と、ファッションとの融合が示す未来の可能性についても学んでいく。		
第14回	きみたちはどう生きるか？	まとめと確認の回を受けるにあたって、事前に自筆ノートの整理を準備しておくこと	4時間
	ファッションを取り巻く環境も、ビジネスのあり方も、人の生き方も大きく変わっていくこれからの社会の中で、よりたくましく、よりハッピーに生きていくためには、どのような考え方をしていけばよいのか。そのためにファッションにいったい何ができるのか。皆の意見を拾いながら、探っていく。		

授業科目名	ファッションアイテム実習Ⅲ				
担当教員名	林 塔子				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大学での織実習・演習の講師、クラフトセンターにて織指導				

開放科目の指示：「可・不可」

授業概要

現代の生活の中には様々なデザイン・ファッションがあふれています。この授業ではファッションコーディネーターに欠かせないバックを実際にデザイン・制作することを通して、自己の「美」に対する意識を育て、素材に対する興味や発想力を深めます。バッグの紐をカード織の技法、本体をニードルフェルト刺繍の技法を用いて、①基礎課題、基礎を踏まえてアイデアを高めた②応用課題の2点を制作します。ニードルフェルト・カード織等の専門的な初めての技法に取り組み、想像力、集中力、忍耐力を育てながら技術を身に付けます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

技法に対する理解と作品の制作。

目標：

それぞれの技法の特性を理解し、自分の作品のデザインを考え仕上げまで制作する。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP6. 行動・実践
3. DP7. 完遂

自ら動く力；課題に好奇心を持ち、物事に対して広く関心を持つ態度

自ら動く力；積極性を持ち新たな課題に物怖じせず挑戦する態度

めげない力；失敗や課題にめげず最後まで根気よく計画を全うする力

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業態度	：	出席・授業時間内の態度。特に自ら積極的に作品制作に取り組んでいるかを評価します。
	30 %	
授業内課題	：	授業内課題作品2点の提出、及び作品の創意工夫、完成度を評価します。
	70 %	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内説明の補足として、作品サンプル・プリントなどを提示し説明します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。授業内課題が全て提出されない場合、成績評価を行わない。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業後

場所： 教室

授業計画

学修課題

授業外学修課題に
かかる目安の時間

授業計画	学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回 授業の全体説明と基礎課題：カード織① 授業全体を通しての説明。 カード織（バッグ紐）・ニードルフエルト（バッグ本体）の技法を用い、バッグを制作する。 基礎課題：素材は毛糸（紐）フェルト（本体）にて制作し、技法を習得。 応用課題：技法に合う素材であれば自由。基礎課題を踏まえて、更なる独自の工夫やデザインを考え制作する。 <基礎課題> カード織の技法説明。（素材は毛糸） デザイン・色を選んで経糸（たていと）の準備。（バッグ紐の制作）	カード織の技法技法説明の内容の復習。プリントに目を通し技法内容を理解してこること。	1時間
第2回 基礎課題：カード織② カード織の技法の織り方説明。 準備した経糸（毛糸）でバッグ紐を織る。	カード織の技法技法説明の内容の復習。プリントに目を通し技法内容を理解してこること。	1時間
第3回 基礎課題：カード織③ カード織の技法の織り方説明。 準備した経糸（毛糸）でバッグ紐を織る。 同時にバッグ全体のデザインも考えながら進める。	ニードルフエルトバッグのデザインを考え、素材のフェルトを用意する。	1時間
第4回 基礎課題：カード織④とデザイン計画 カード織り技法のバック紐を織り上げ・始末 同時にバッグ全体のデザインも考えながら進める。 ニードルフエルト刺繍の技法説明。 サンプル用のフェルト生地に羊毛を刺し、サンプル制作。 サンプルを踏まえデザインを考える。 （カード紐との相性を考え、デザイン計画を書く。） 次週までにバッグ本体の素材（フェルト）を用意する。	ニードルフエルトバッグのデザインを考え、素材のフェルトを用意する。	1時間
第5回 基礎課題：ニードルフエルト刺繍① デザイン計画を元に準備したフェルトの布地にニードルフエルト刺繍をしていく。 制作しながら、思いついたアイデアを足していく。 （バッグ本体の制作）	制作の状況に合わせてデザインの工夫を考える。	1時間
第6回 基礎課題：ニードルフエルト刺繍② デザイン計画を元にフェルトの布地にニードルフエルト刺繍をしていく。 制作しながら、思いついたアイデアを足していく。 （バッグ本体の制作）	応用課題のデザインを考え、カード織の糸を用意する。	1時間
第7回 基礎課題：ニードルフエルト刺繍③と仕上げ バッグの仕上げ。 （カード織の紐を付けてバッグを完成させる。） 基礎課題で習得した技法を踏まえ、応用課題のデザインを考える。 次週までにカード織の糸を用意する事する。技法に合うものであれば素材は自由。	応用課題のデザインを考え、カード織の糸を次週までに用意する。	1時間
第8回 応用課題：全体説明とカード織① 基礎課題で習得した技法を踏まえ、更に一段階進んだデザイン・素材などのアイデアを考慮しバッグを制作する。 カード織の素材を用意し、経糸の準備をする。 素材は技法に合うものであれば自由。	バッグのデザインを考え、本体の素材を用意する。	1時間
第9回 応用課題：カード織② 準備した経糸でバッグ紐を織る。	バッグのデザインを考え、本体の素材を用意する	1時間
第10回 応用課題：カード織③ 準備した経糸でバッグ紐を織る。	バッグのデザインを考え、本体の素材を次週までに用意する	1時間
第11回 応用課題：ニードルフエルト刺繍① バッグ用の布地に計画したデザインを元にニードルフエルト刺繍をしていく。 素材は技法に合うものであれば自由。 （カード織の紐を付けてニードルフエルトのバッグを作る） 制作の状況に合わせてデザインの工夫を考える。	制作の状況に合わせてデザインの工夫を考える。	1時間
第12回 応用課題：ニードルフエルト刺繍② フェルトの布地に計画したデザインを元にニードルフエルト刺繍をしていく。 （カード織の紐を付けてニードルフエルトのバッグを作る） 制作の状況に合わせてデザインの工夫を考える。	制作の状況に合わせてデザインの工夫を考える。	1時間

第13回	<p>応用課題：ニードルフェルト刺繍③</p> <p>フェルトの布地に計画したデザインを元にニードルフェルト刺繍をしていく。 (カード織の紐を付けてニードルフェルトのバッグを作る)</p> <p>制作の状況に合わせてデザインの工夫を考える。</p>	制作の状況に合わせてデザインの工夫を考える。	1時間
第14回	<p>応用課題：仕上げ</p> <p>応用課題のカバンを仕上げる。</p> <p>試験期間に基礎課題・応用課題の2点を提出し、デザインや工夫についてコメントする。</p>	カード織とフェルトのバッグについて工夫した点、反省点をまとめる。	1時間